

目次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 p. 2
- 2 人材需要の動向等社会の要請 p. 9

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

①入学定員設定の考え方

教育探究科学群（以下、「本学群」という。）では、入学定員 150 人、収容定員 600 人に設定した。なお、入学定員のうち、50 人はリベラルアーツ学群の入学定員を移動する。これに伴いリベラルアーツ学群は入学定員 950 人、収容定員 3,800 人から、入学定員 900 人、収容定員 3,600 人となる。従って、本学学士課程全体における入学定員は 2,620 人、収容定員は 10,480 人の規模となる。

さて、本学群の入学定員を 150 人としたことについては、その根拠として、第三者機関によるアンケート調査を実施した結果により確保することが可能との見通しを立て、判断したものである。詳細については後述するが、主な受験対象者となる高校 2 年生に対してのアンケート調査において、大学進学希望かつ本学群を「受験したい」と回答した 715 人のうち、受験し、合格した場合に「入学したい」と強い入学意欲を示した回答は 230 人であり、本アンケート調査において、入学定員 150 人を大きく上回る結果を得た。このことから、本学群が求める学生を確保することは十分に可能であると判断した（資料 5）。

一方で懸念されるのは、「教育学」を学ぶことを掲げ、学群名称にも「教育」が入っていることである。日本では一般的に「教育学＝教職教育」と捉える傾向が強く、教員養成を行わない教育学が何を学ぶのかイメージしづらい可能性がある。また資料 1 (p.18)、資料 2 (p.36) のとおり教育学関係の学部への倍率は、平成 23 年度は 8.15 倍だったものが、令和 3 年度には 5.66 倍と減少傾向にある。こうした状況に対しては、次のように判断し、対応していく。

本学群においては、「設置の趣旨等を記載した書類」でも述べたとおり、本来的に学際的な分野である教育学を教育社会学、教育心理学を中心としつつも、幅広くかつ体系性を保ったカリキュラムを構築している。後述するオープンキャンパスや高校訪問、模擬授業等による積極的な広報活動を通じて、教育学の学際性及び本学群の学びの特徴の周知を図る。さらにその中で、教育のみならず、心理学や社会学に興味のある層にもカリキュラムの特性からアプローチをすることができ、志願に結びつけることが可能であると判断した。この判断の根拠は、前述のアンケート調査において、本学群の説明を読んで興味・関心を持った内容を問う設問に回答者の約 30%が「人間の成長や豊かな社会のあり方を研究対象としている教育学を学べること」を選んだことにある。これらの回答者は「人間の成長や豊かな社会の

あり方を研究対象とした学問」に興味・関心を持っており、本学群が展開する教育との親和性が高いと言える。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 地域における人口動態と地域残留率（資料 3、4）

本学群の地域の人口予測及び自県内への進学状況から、学生確保の見通しを述べる。本学群は神奈川県相模原市の JR 淵野辺駅前にあるプラネット淵野辺キャンパス (PFC) にて開設予定である。本学のメインキャンパスである町田キャンパスへは、PFC から 5～10 分間隔でバスが運行している。東京都と神奈川県の県境に近いキャンパスである。こうした環境から、本学は東京と神奈川の出身者が約 7 割を占めている。

リクルート進学総研による調査（資料 3）によると、全国的な 18 歳人口は開設予定年度の 2023 年には 1,097,416 人、完成年度の 2026 年には 1,092,118 人となり約 5,000 人減、2032 年には 1,023,963 人となり 7 万人以上の減少となる。一方の東京は、2023 年 102,330 人、2026 年 106,120 人、2032 年 105,791 人と微増から横ばいの傾向である。神奈川は 2023 年 76,186 人、2026 年 76,880 人、2032 年 73,550 人の横ばいから微減の傾向となっている。2020 年に対する 2032 年の全国的な 18 歳人口の減少は 12%以上であるが、東京、神奈川は 3%程度と予測されている。

さらに同調査では、ある都道府県内の大学や短期大学者への入学者数の内、同一の都道府県にある高校出身者の占める割合を「残留率」と定義し、分析を行っている。2011 年から 2020 年に掛けて、南関東の大学進学における地元残留率はほとんど変わっていない。東京、神奈川を個別に見ても数パーセントの増減であり、大きな影響は見られない。

以上のような地域性を背景とし、学生確保の見通しが充分ある土壌だと判断できる。

2) 私立大学・分野別の志願状況（資料 4）

日本私立大学振興・共済事業団の発行する「私立大学・短期大学等入学志願動向」の学部系統別の動向（大学）によると、教育学分野の志願倍率は、平成 24 年度 7.45 倍、平成 28 年度 6.63 倍、令和 3 年度 5.66 倍と減少傾向にある。日本の大学における多くの教育学部は教員養成を目的としている。また教員の多くは公務員であることから、好景気が続いたことで公務員志望の学生が減少したものと判断できる。さらに近年は教員の労働環境問題がニュース等で報じられていることも影響していると考えられる。

しかしながら、前述のように本学群では、教育学という学際的な学問分野において教員養成ではなく、広く教育社会学や教育心理学等も扱う。こうした特性から、社会学系や心理学系を志望する学生にも広く関心を集めることができると考えている。資料 4 では、関東の入学定員 1000 人以上の大学のうち、社会系統と心理系統の学部を持つ大学の令和 2 年度から 5 年間の志願者、受験者、合格者数をまとめたものである。心理系統は平均して 3.5 万人、

社会系統は5.5万人、計9万人の志願者を募っている。こうした志願者層の1%にでも興味をもってもらうことができれば、十分な志願者数を確保できることになる。

3) 高校生への進学意向調査（アンケート）の分析結果（資料5）

本学群の入学定員150人の定員充足の見通しを検証することを目的に、第三者機関である株式会社高等教育総合研究所の協力を得て、2021年時点の高校2年生を対象にアンケート調査を実施した。

アンケートは、本学への進学実績のある高校を中心に889校に依頼し、協力可能と回答した132校において実施した。調査を実施するに当たっては教育探究科学群の概要、人材養成目的、学部の特徴、入学定員、初年度学納金等を明示した。なお、初年度学納金についてはアンケート作成時点から見直しを行い、初年度の学生納付金を143万円に変更している。

アンケート調査の実施概要は以下のとおりである。

○実施期間：2021年9月9日（木）～2021年11月19日（金）

○調査方法：アンケート調査（紙・Web）

○調査対象：2021年度時点の高校2年生を対象

過去3年間の1校当たりの平均受験者数が4人以上かつ指定した都道府県（北海道、秋田、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡、沖縄）にある高等学校、または過去3年間の平均受験者が5人以上の高等学校

○調査内容：アンケート項目は最大10問の選択肢式とした。

主な質問内容は以下のとおり。

「回答者の基本属性情報（性別・居住地）について」

「卒業後の進路（希望進路、進路先地方）について」

「好きな教科や学びについて」

「桜美林大学「教育探究科学群」への受験・入学意欲について」

○実施校数：132校（実施率14.8%／依頼数889校）

○有効件数：20,307件（回収件数20,677件／有効件数98.2%）

上記概要のとおり、本学の学生募集基盤となる東京、神奈川を中心とした南関東の他、入学者の多い地方である北海道、福島、茨城、長野、静岡等の地方、さらに探究学習に重点的に取り組んでいる高等学校の高校2年生を対象として実施した。進路として大学を希望し、かつ、「合格した場合、入学したい」と回答した者は230人であり、入学定員の約1.5倍となった。また、「合格した場合、入学したい」と回答した者は395人で入学定員の約2.6倍だった。

なお、当該アンケート調査を実施していない東京都や神奈川県高等学校を中心に、今回

調査を実施していない高等学校からも受験が予見される。これは、資料 5 p. 1 に記載されているとおり、コロナ禍でのアンケート実施だったにもかかわらず、本学が過去に実施した他学群認可、届出申請時の高校生アンケートと比較しても最もアンケート回答数が多く、高等学校の教員が本学群に関心を持っていると考えられる。

また、「受験しない」と回答した者（19,342 件）の内訳を見ると、「まだ、志望校を決めていないから」が 6,250 件（32.3%）、「詳細を知った上で検討したいから」が 2,444 件（12.6%）と回答している。アンケートの紙面に記載できる情報には限りもあり、コロナ禍による進路指導の遅れも指摘されていることから、後述する広報活動において、高校訪問や出張講義等の積極的展開とオープンキャンパスの更なる充実を図っていく。

こうしたことから、十分かつ安定的な定員充足が見込まれる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学群の学生納付金については、本学群の提供する教育に当たり十分な人的資源、教育研究に係る経費、施設設備を想定し、学群として持続的に運営できる採算性を考慮した。

教育研究経費、施設設備費、人件費、管理費等を勘案し、初年度の学生納付金を入学金 10 万円、授業料 98 万円、教育充実費 5 万円、施設設備費 30 万円の合計 143 万円と設定した。

近隣大学の初年度学生納付金をまとめた資料 6 のとおり、近隣の大学の教育学部や心理学、社会学等、社会科学系の学問分野と実践的なカリキュラムを組み合わせた学部、学科と比較してもそこまで大きな乖離はない。

上記に加え、高校生への進学意向調査（資料 5）において、当初検討していた 143 万円よりも高い初年度学生納付金を提示していたが、調査結果のとおり、入学意向を示す高校生が十分に居ることからも、妥当な範囲だと考えている。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 募集活動の体制

学長と学長補佐である事務職員の入学部部長を中心として、本学群専任教員及び募集広報活動の主管部署である入学部事務職員の他、全学的な教職協働体制により、本学群への進学意欲の向上のための広報活動を展開する。

教員は、学群のコンセプトや学びの内容を伝えるための特別セミナー等の定期的な開催や、主として高等学校への出張講義を中心に行う。実際の教育・研究を行う教員としての視点で、本学群の入学者受入れの方針に共感して入学した学生を育成するためにどのような教育を行っていくのかを、高等学校の教員及び教育関係者に示していく。これに加え、高等学校への訪問、進学説明会や会場等で行われる進学相談会等にも可能な限り、職員とともに積極的に参加し、より魅力的な情報の発信を行う。

事務職員は、オープンキャンパスをはじめとする各種イベントの企画、広報媒体掲載の準備等を行いつつ、全国の高等学校訪問、進学ガイダンスや進学相談会等に積極的に参加することとしており、入学アドバイザーと呼称する全学的なチーム体制をもって臨むこととしている。

2) 募集活動の内容

i) 高校訪問

本学に自宅から通学できる範囲内にある東京都及び神奈川県を中心として、埼玉県、千葉県、山梨県東部、静岡県東部に所在する高等学校を定期的に訪問する。訪問に際しては進路指導担当教諭に広報活動を行いつつ、当該年度の受験生の進路志望状況等の情報収集も併せて行っている。

もう一方では、「総合的な探究の時間」を先駆的に始めている高等学校、公教育を支援する NPO や、教育コーディネータなどが活躍する中山間離島地域の高等学校などの存在を鑑みると、本学群は、全国各地の高等学校からの志願及び進学になることが想定されることから、積極的に訪問する。

ii) 出張講義及び模擬授業

本学群の開設に先立ち、高校生のカリヤ支援や探究学習を行うプログラム・「ディスカバ！」を、令和2年度より高等学校の「総合的な時間」（新学習指導要領では「総合的な探究の時間」）やロング・ホームルームに試験的な提供を開始している。

令和3年度からは、「ディスカバ！ for School」として本格的なプログラム提供をはじめ、問い合わせを含めると既に全国の50校を超える高等学校から反響を得ており、参加者の中から志願者及び進学者が現れることが想定される。

iii) オープンキャンパス

本学では、例年3月から11月にかけて、複数回にわたりオープンキャンパスを実施している。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける前年度・平成31年度（令和元年）は20,545人の来場者があり（表3）、それまでの5年間で平均15,000人を超える来場者となっている。

主な実施内容としては、大学全体のガイダンスにはじまり、本学群等の教育内容等に関するガイダンスや体験授業、ワークショップ、海外留学等の国際交流や在学生との懇談、キャンパスツアー、入試ガイダンス等を実施する。開催に際しては各学群の専任教員、入学部を中心とした各部署の専任職員による教職員のほか、桜インターンと呼称している本学在学生が多数連携して行う。オープンキャンパスは高校生に対して本学の魅力を伝える最大の広報手段の一つとなっており、本学群においてもこのオープンキャンパスを十分に活用する。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大以降は、オンラインに切り替えてオープンキャンパスを開催しており、参加者数はコロナ前の状況に回復するには至っていないものの、回復の兆しは見えつつある。

また、例年 10 月下旬から 11 月上旬にかけて大学祭を開催しており、期間中は、受験生向けに「受験・進学相談会」も開催している。本学学生が躍動しているところを高校生に直接見てもらう良い機会であるとともに、本学への関心を高めるものとして継続的に実施している。

【表 3：オープンキャンパス参加者数（平成 29 年度～令和 3 年度）】

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 令和元年	令和 2 年度	令和 3 年度
人数	14,432 人	15,680 人	20,545 人	4,966 人	7,113 人

iv) ウェブサイト

ウェブサイトは高校生に対し、本学の魅力を伝える手段として最も有効な第一接触媒体である。近年は、文字や写真だけの情報提供のみならず、映像やスマートフォンにも対応したサイト、SNS などと連動し、本学の情報をより分かりやすく発信できるものとなっている。文部科学省の「PR 活動について」に従い、学群全体の概要、三つの方針（入学者受入の方針、教育課程編成の方針、学位授与の方針）、学群の特色や魅力、教員紹介、キャリア、学生生活等を掲載している。

本学群についても、同様の広報活動を行い、具体的で魅力ある情報を発信していく。また、適宜更新を行い、常に最新の情報を提供することを心掛けるとともに、本学群に関わる教職員、関係者の声も多く発信していくことで、高校生や高等学校の進路支援に携わる方々が必要とする情報を提供する。

v) 進学相談会及び進学説明会への参画

進学情報誌や進学情報サイト等の各種媒体の広告代理店等が主催する全国各地の会場で開催する進学相談会、高等学校での進学説明会に積極的に参画する。この相談会や説明会は年間を通じて実施されており、時期により高校 3 年生だけでなく、1、2 年生を対象として実施される。昨今は 1 年生から進学相談会へ参加する生徒も多く、早い時期から進路の意識が高まっている。本学群においても、1、2 年生のうちから魅力を伝え、進学を希望してもらえるよう意識づけを行う。

vi) 進学情報誌等の媒体への掲出

進学情報誌や進学情報サイトへの掲出も積極的に実施する。掲出に際しては、本学におけ

るこれまでの掲出実績を勘案しつつ実施するほか、本学群単体での各種媒体（進学情報誌や進学情報サイト、新聞、雑誌、メディア等）への掲出も積極的に行う。

vii) 志願予定者の動向分析

上述した高校訪問や進学相談会、オープンキャンパス等で得た志願予定者の動向等は、入学部において情報を集約し、分析を行う。また、文部科学省等の公的機関や進学媒体等より提供されるデータ等からも受験生や他大学等の動向も分析し、その分析結果を基に広報活動の内容を不断に改善しつつ、学生の確保に注力する。

2 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学群は、我が国の Society5.0 の議論に見られる社会的な人材育成需要へ応えとともに、2040 年の未来予測において強調される人間性の要素に焦点をあてている。教育学の知見を教育業務に携わる者だけでなく、すべての人々のあらゆるライフステージの中で必要なものと捉え、自らの変化と社会や他者の変化に関心を持ち続けるために必要不可欠なものとしている。

また、自身や社会の変化や成長に対し、学びに対し前向きになるための探究心と好奇心を育成する重要な要素として、探究科学（Inquiry Study）を挙げる。テストや課題で良い点を取るといったような「正しくやること」に囚われず、学生がその好奇心を発揮して間違いを恐れることなくねばり強く学習する体験を通じて、2040 年の未来予測に提示される「不滅の好奇心」を身につける。

これらを踏まえ、自分らしく生き、社会は多様な人間が緩やかにつながり共生する環境を提供する「人間性の再興・再考による柔軟な社会」の構築に貢献し、その中でよりよく生きていける者の育成を目指す。

◆養成する人材像

教育学の豊かな知見に基づき、人間的かつ社会的な諸課題を学術的探究方法によって解決できる知識及び技能を修得し、人や組織の成長のためにリーダーシップを発揮できる人材を養成する。

◆学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

○人や組織の成長や発展に係る課題についてリーダーシップを発揮できる人材を養成すべく、哲学、社会学、心理学、工学、認知科学等における教育学的知見を修得し、学生が個々に設定する課題を探究する活動を通じて主体性と明瞭な表現力を修養できる教育等を行う。

○学生に修得させる能力

- (1) 教育事象について批判的考察ができる
- (2) 教育的活動に関わる中で、その構想や具体化ができる
- (3) 教育的事象や活動に関し、効果的にコミュニケーションをとれる
- (4) 教育的事象や活動に関し、効果的に協働できる
- (5) 生涯にわたり学び続けるための基礎を身に付けている
- (6) 探究科学の手法を用い、主体性をもって発信できる

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

AI やロボット、IoT 等の技術革新が進むことで労働が機会に代替される可能性については様々な指摘がなされている。著名なものはオックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授らによる試算であり、アメリカでは 10 年～20 年以内に労働人口の 47%が機械に置き換わる可能性があるとしている。日本国内でも約 50%程度が代替されるという指摘もある。こうした技術革新を背景に、「科学技術基本計画（第 5 次科学技術基本計画）」や「未来投資戦略 2017」「2040 年の未来予測—科学技術が広げる未来社会」等さまざまな方針が示されている。例えば、人材への投資によって働き手一人一人の能力・スキルを産業構造の変化に合わせて生産性を向上させていくことの重要性や、Society5.0 の社会に相応しい者を育成していく中で、人間らしさや幸福、コミュニティの価値の向上、異なる特徴を持つ人々が個々の特徴を理解し、それらがつながることでの進化、資源やエネルギーの持続可能性と市民活動の重視、探究心が求められることが指摘されている。社会的な需要としても、将来的に代替される可能性のある特定の職業教育という従来の枠組みではなく、リスキリングを前提とした人材育成が必要である。

故に、社会を構成する一人ひとりのウェルビーイングの観点からも人生 100 年時代に必要な技能・態度として、学ぶことにポジティブな姿勢をもつ人材育成が求められていることは明白である。

この社会からの要請については、企業が学生に対してどのような資質や能力、知識を求めているかといった観点から本学の現状等に関して検証した。

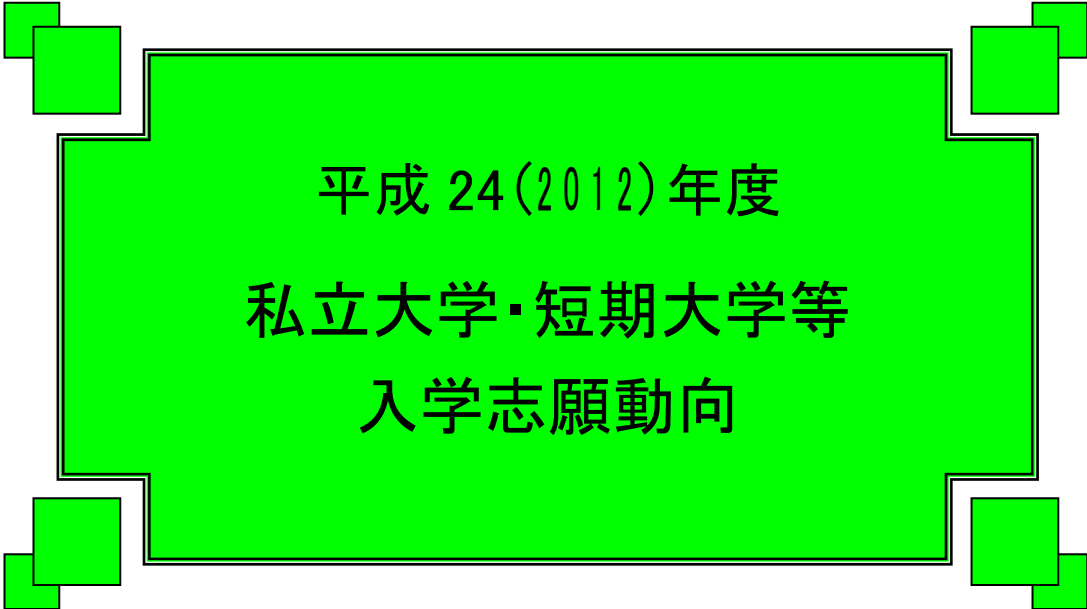
まず、日本経済団体連合会の「高等教育に関するアンケート結果」（資料 7）において、文系の学生に対しては、主体性、実行力、課題設定・解決能力、チームワーク・協調性の順に高いポイントとなっており、こうした資質の涵養については、2021 年に行われた日経 HR 社の「企業人事担当者から見た大学イメージ調査」（資料 8）のとおり、すでに本学は経済界から一定の評価を得ている。

同調査において、早稲田大学、慶應義塾大学に続き、総合ランキング全国私立大学 3 位の評価を得た。加えて、同調査における側面別ランキングを見てみると、「対人力」が全国私大で 1 位、「独創性」が全国私大 3 位、「行動力」が全国私大 4 位であった。この結果は、本学のいずれの学群でも行っているサービスマーケティングに代表される他者との協働学修のプログラム及び豊富な留学プログラムや学内での国際交流の機会、そして学修者本位の学び等の取組により得られたものである。

本学群においても、こうした取組は探究科学科目群の授業にも取り入れて行っていくこととしている。教育学の専門性に加え、これらの取組を行うことによって、社会的な需要に十二分に応える人材を育成することができ、かつ、それが上述したように人生 100 年時代に必要な技能・態度として学ぶことにポジティブな姿勢をもつ人材育成にもつながっていくものと確信している。

資料目次

資料番号	資料名
資料1	平成24(2012)年度私立大学・短期大学等入学志願動向（抜粋）
資料2	令和3(2021)年度私立大学・短期大学等入学志願動向（抜粋）
資料3	18歳人口予測南関東版_リクルート進学総研2021年04月号
資料4	南関東入学定員1000人以上の大学の志願・受験・合格状況
資料5	教育探究科学群_高校生アンケート調査報告書
資料6	近隣大学の初年度学生納付金
資料7	経団連：高等教育に関するアンケート結果
資料8	日経HR企業人事担当者から見た大学イメージ調査



平成 24(2012)年度
私立大学・短期大学等
入学志願動向

日本私立学校振興・共済事業団
私学経営情報センター

本報告書は、日本私立学校振興・共済事業団が行った平成 24 年度の「学校法人基礎調査」に基づいて志願者数、入学者数等を集計し、入学定員充足率等をまとめたものです。

本報告書の発刊は、本年度で 14 年目となりました。当事業団では経済状況や人口動態により、私立大学・短期大学の学部や学科がどのように変化してきたのか、また、規模別や地域別の入学定員充足率がどのように推移してきたのかを継続的に分析することは、大変重要であると考えております。

平成 24 年度は 18 歳人口が前年に比べ約 1 万 1 千人減少する中、大学・短期大学への志願者数は前年度に比べ約 1 万 8 千人減少し、入学者数も約 1 万 1 千人減少しました。平成 25 年度以降も引き続き厳しい状況にあります。

志願者数や入学者数、入学定員充足率の動向は、学校法人の経営を考える上で重要な要素のひとつです。本報告書を、今後の経営改善や教育改革にお役立ていただければ幸いです。

お忙しい中、「学校法人基礎調査」にご協力いただきました学校法人の皆様には、厚くお礼を申し上げます。

平成 24(2012)年 7 月

日本私立学校振興・共済事業団

私学経営情報センター

私学情報室長 原 徹

平成 24(2012)年度

私立大学・短期大学等 入学志願動向 目次

集計の概要・利用上の留意事項	1
----------------	---

大 学

I 大学の概況

1. 志願者等の増減状況	2
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	3

II 区分ごとの動向（大学）

1. 規模別の動向（大学）	4
2. 地域別の動向（大学・学校別）	8
3. 地域別の動向（大学・学部別）	13
4. 学部系統別の動向（大学）	18
5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）	22

III 入学定員充足率等の推移（大学）

25

短期大学

IV 短期大学の概況

1. 志願者等の増減状況	28
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	29

V 区分ごとの動向（短期大学）

1. 規模別の動向（短期大学）	30
2. 地域別の動向（短期大学・学校別）	34
3. 地域別の動向（短期大学・学科別）	38
4. 学科系統別の動向（短期大学）	42
5. 主な学科別の志願者・入学者動向（短期大学）	46

VI 入学定員充足率等の推移（短期大学）

49

大学院

VII 大学院の概況

1. 志願者等の増減状況	52
2. 研究科系統別の動向（大学院）	54
3. 主な研究科別の志願者・入学者動向（大学院）	56

集 計 の 概 要

1. 方法

平成 24 年度に実施した「学校法人基礎調査」から、私立大学・短期大学（通信教育は除く）の入学者等に関する項目のデータを集計。

（注）株式会社が設置する学校は調査対象外とした。

2. 学校数

○平成 24 年 5 月 1 日現在の調査対象学校数
大学 589 校、短期大学 352 校、大学院 463 校

○集計学校数
大学 577 校、短期大学 330 校、大学院 453 校

○集計対象外の学校数
通信教育部のみ設置する学校（大学 4 校、短期大学 1 校、大学院 2 校）
募集停止の学校（大学 7 校、短期大学 21 校、大学院 8 校）
学校法人基礎調査未提出の学校（大学 1 校）

（注）大学院のみを設置する学校は「大学院」に含めている。

利用上の留意事項

1. 調査基準日

○各年度 5 月 1 日

2. 各比率の算出方法

○志 願 倍 率（志 願 者 ÷ 入 学 定 員）
○合 格 率（合 格 者 ÷ 受 験 者）
○歩 留 率（入 学 者 ÷ 合 格 者）
○入 学 定 員 充 足 率（入 学 者 ÷ 入 学 定 員）

（注）比率の表記は小数点以下第 3 位を四捨五入したものである。

3. 系統区分について

学部（学群を含む）、学科及び研究科（学府を含む）の系統区分は、当事業団より発行の『今日の私学財政（大学・短期大学編）』の系統区分と同一である。


4. 学部系統別の動向(大学)

全学部を『今日の私学財政』の系統別に区分した(学部系統区分については、1ページ及び24ページを参照)。

区分	年度	集計 学部数	入学定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	23	29	3,516	82,305	75,689	7,221	3,536	23.41	9.54	48.97	100.57
	24	29	3,552	84,899	78,183	7,351	3,587	23.90	9.40	48.80	100.99
	増減	0	36	2,594	2,494	130	51	0.49	△ 0.14	△ 0.17	0.42
歯学	23	17	2,190	4,927	4,393	2,927	1,524	2.25	66.63	52.07	69.59
	24	17	2,070	5,626	5,098	3,095	1,668	2.72	60.71	53.89	80.58
	増減	0	△ 120	699	705	168	144	0.47	△ 5.92	1.82	10.99
薬学	23	57	11,719	76,517	72,330	27,716	11,284	6.53	38.32	40.71	96.29
	24	57	11,579	82,573	78,156	28,551	11,631	7.13	36.53	40.74	100.45
	増減	0	△ 140	6,056	5,826	835	347	0.60	△ 1.79	0.03	4.16
保健系	23	146	22,254	123,017	118,568	43,365	24,303	5.53	36.57	56.04	109.21
	24	154	23,414	138,556	133,595	46,612	25,708	5.92	34.89	55.15	109.80
	増減	8	1,160	15,539	15,027	3,247	1,405	0.39	△ 1.68	△ 0.89	0.59
理・工学系	23	146	59,127	528,263	509,673	190,029	64,154	8.93	37.28	33.76	108.50
	24	147	59,254	553,755	534,445	197,727	63,518	9.35	37.00	32.12	107.20
	増減	1	127	25,492	24,772	7,698	△ 636	0.42	△ 0.28	△ 1.64	△ 1.30
農学系	23	17	7,000	69,494	66,487	20,722	8,096	9.93	31.17	39.07	115.66
	24	17	6,960	72,512	69,536	20,988	7,921	10.42	30.18	37.74	113.81
	増減	0	△ 40	3,018	3,049	266	△ 175	0.49	△ 0.99	△ 1.33	△ 1.85
人文科学系	23	242	72,231	509,202	492,901	180,990	78,117	7.05	36.72	43.16	108.15
	24	239	70,835	505,198	488,365	182,282	74,956	7.13	37.32	41.12	105.82
	増減	△ 3	△ 1,396	△ 4,004	△ 4,536	1,292	△ 3,161	0.08	0.60	△ 2.04	△ 2.33
社会科学系	23	506	168,716	1,195,979	1,150,016	389,885	177,696	7.09	33.90	45.58	105.32
	24	510	168,952	1,133,175	1,085,321	401,667	172,115	6.71	37.01	42.85	101.87
	増減	4	236	△ 62,804	△ 64,695	11,782	△ 5,581	△ 0.38	3.11	△ 2.73	△ 3.45
家政学	23	68	14,746	75,099	73,379	27,902	15,846	5.09	38.02	56.79	107.46
	24	68	14,729	72,511	70,694	28,001	15,440	4.92	39.61	55.14	104.83
	増減	0	△ 17	△ 2,588	△ 2,685	99	△ 406	△ 0.17	1.59	△ 1.65	△ 2.63
教育学	23	61	11,397	92,922	89,723	23,026	12,343	8.15	25.66	53.60	108.30
	24	68	12,750	95,023	91,750	26,910	13,771	7.45	29.33	51.17	108.01
	増減	7	1,353	2,101	2,027	3,884	1,428	△ 0.70	3.67	△ 2.43	△ 0.29
体育学	23	10	4,442	15,043	14,803	6,839	5,352	3.39	46.20	78.26	120.49
	24	10	4,542	15,688	15,451	7,052	5,455	3.45	45.64	77.35	120.10
	増減	0	100	645	648	213	103	0.06	△ 0.56	△ 0.91	△ 0.39
芸術系	23	60	15,371	46,365	45,314	22,853	15,282	3.02	50.43	66.87	99.42
	24	60	15,375	41,424	40,513	23,052	14,625	2.69	56.90	63.44	95.12
	増減	0	4	△ 4,941	△ 4,801	199	△ 657	△ 0.33	6.47	△ 3.43	△ 4.30
その他	23	234	60,288	390,919	378,057	136,071	64,426	6.48	35.99	47.35	106.86
	24	242	61,778	397,385	383,648	144,512	64,497	6.43	37.67	44.63	104.40
	増減	8	1,490	6,466	5,591	8,441	71	△ 0.05	1.68	△ 2.72	△ 2.46
合計	23	1,593	452,997	3,210,052	3,091,333	1,079,546	481,959	7.09	34.92	44.64	106.39
	24	1,618	455,790	3,198,325	3,074,755	1,117,800	474,892	7.02	36.35	42.48	104.19
	増減	25	2,793	△ 11,727	△ 16,578	38,254	△ 7,067	△ 0.07	1.43	△ 2.16	△ 2.20

学部系統区分	
医学	医
歯学	歯／生命歯／第二歯／第二生命歯
薬学	香川薬／薬
保健系	医療／医療衛生／医療科／医療看護／医療経営／医療技術／医療健康／医療健康科／医療福祉／医療福祉マネジメント／医療保健／栄養／小田原保健医療／看護／看護医療／看護栄養／看護福祉／看護リハビリテーション／健康医療科／健康福祉学群／健康メディカル／産業保健／鍼灸／総合リハビリテーション／地域医療／ヒューマンケア／福岡医療技術／福岡リハビリテーション／保健／保健医療／保健医療技術／保健医療福祉／保健衛生／保健科／保健看護／保健福祉／リハビリテーション
理・工学系	医用工／医療工／医療福祉工／応用生命科／応用バイオ科／科学技術／化学生命工／環境／環境都市工／基礎工／技能工芸／空間創造／芸術工／建築／工／工芸／コンピュータサイエンス／産業科学技術／産業工／産業理工／システム工／情報科／情報環境／情報工／情報通信／情報通信工／生産工／生物／生物生命／生物理工／生命科／総合生命科／創生工／創造工／創造理工／ソフトウェア情報／知識工／デザイン工／バイオ・化／バイオサイエンス／フロンティアサイエンス／未来科／理／理工
農学系	海洋／海洋生命科／獣医／獣医学群／生物産業／生物資源科／生命環境／動物看護／農／農食環境学群
人文科学系	異文化コミュニケーション／英語キャリア／外国語／グローバル教養／グローバル・コミュニケーション／言語コミュニケーション／現代心理／現代文化／国際・英語／国際英語／国際言語／国際言語文化／国際人文／国際人間／国際文化／こども心理／子ども発達／子ども未来／神／心身科／神道文化／人文／人文科／人文学群／心理／心理科／心理こども／総合文化学群／人間／人間関係／比較文化／表象文化／仏教／文／文化／文化言語／文化構想／文化財／文芸／臨床心理／歴史
社会科学系	アジア太平洋／環境社会／環境情報／環境創造／環境ツーリズム／観光／観光ビジネス／観光文化／企業情報／金融経済／経営／経営経済／経営情報／経営法／経済／経済科／経済経営／経済情報／現代経営／現代コミュニケーション／現代社会／現代日本社会／現代ビジネス／現代福祉／現代法／現代マネジメント／公益／国際環境経営／国際観光／国際経営／国際社会／国際政治経済／コミュニケーション／コミュニティ政策／コミュニティ福祉／サービス経営／サービス産業／産業社会／産業情報／シティライフ／社会／社会イノベーション／社会科／社会環境／社会システム科／社会情報／社会福祉／商／生涯福祉／商経／情報／情報社会／情報マネジメント／政経／政策／政策情報／政治経済／総合経営／総合社会／総合政策／総合福祉／総合マネジメント／地域政策／知的財産／都市生活／21世紀アジア／人間健康福祉／人間社会／人間福祉／ネットワーク情報／ビジネス／ビジネス情報／ビジネス創造／ビジネスデザイン／ビジネスマネジメント学群／福祉／福祉環境／福祉社会／福祉情報／福祉総合／法／法経／マネジメント／マネジメント創造／流通／流通科／流通情報
家政学	栄養科／家政／家政学群／管理栄養／健康栄養／健康管理／健康生活／健康プロデュース／現代家政／現代生活／食文化／食物栄養／食物栄養科／生活科／生活環境／生活創造／人間栄養／人間健康／人間生活／人間生活科／服飾／服装
教育学	学校教師／教育／健康・スポーツ科学／現代教育／国際こども教育／子ども／こども／子ども育成／子ども教育／子ども生活／次世代教育／児童／児童保育／スポーツ健康政策／人間開発／人間教育／人間発達／発達科／発達教育／保育／臨床教育
体育学	体育
芸術系	映画／音楽／芸術／先端芸術／造形／造形芸術／造形表現／デザイン／東京メディア・コンテンツ／美術
その他	医療経営／医療経営管理／英語情報マネジメント／映像／応用心理／応用生物／応用生物科／学芸／環境・建築／環境園芸／環境情報ビジネス／看護福祉心理／感性デザイン／基幹理工／危機管理／キャリア形成／キャリアデザイン／教育人間科／教育福祉／教養／グローバル・メディア・スタディーズ／グローバルエンジニアリング／グローバルスタディーズ／経営教育／経営文化／芸術情報／健康科／健康福祉／現代教養／現代国際／現代政策／現代中国／現代人間／現代ライフ／交流文化／国際／国際関係／国際教養／国際交流／国際コミュニケーション／国際食料情報／国際情報／国際地域／国際日本／国際人間科／国際福祉開発／国際文化交流／子ども科／コミュニティ振興／コンピュータ理工／サービス創造／システム理工／社会安全／生涯学習システム／生涯スポーツ／情報コミュニケーション／情報デザイン／情報フロンティア／情報ビジネス／情報文化／情報メディア／情報理工／人文社会／心理（・）福祉／スポーツ／スポーツ・健康科／スポーツ科／スポーツ健康／スポーツ健康科／スポーツ人間／生物地球／生命／生活福祉文化／政策科／政策創造／生命・環境科／生命医科／生命健康科／生命工／先進理工／総合情報／総合人間／総合人間科／総合光科／総合文化／総合文化政策／地域環境科／地球環境科／知能情報／都市情報／人間科／人間環境／人間情報／人間総合／人間文化／バイオ環境／美術文化／表現／福祉健康／福祉貢献／不動産／文化情報／文化創造／文化表現／文理／保健医療経営／ホスピタリティ・ツーリズム／マンガ／未来創造／未来デザイン／メディア／メディア・芸術／メディアコミュニケーション／メディア情報／メディア造形／メディアプロデュース／モチベーション行動科／ライフデザイン／リベラルアーツ／リベラルアーツ学群

※この区分は、『今日の私学財政』によるものである。（50音順）



令和3(2021)年度
私立大学・短期大学等
入学志願動向

 日本私立学校振興・共済事業団

令和3(2021)年度

私立大学・短期大学等 入学志願動向 目次

この「私立大学・短期大学等 入学志願動向」は、日本私立学校振興・共済事業団が令和3(2021)年度に実施した「学校法人基礎調査」から、入学定員、志願者数及び入学者数等を集計し、入学定員充足率や志願倍率等の動向を規模別、地域別、学部系統別にまとめたものです。

本報告書は、平成11年度に刊行して以来、本年度で23年目を迎えました。この間、私立大学・短期大学等は、人口動態、社会や学生のニーズの変化に対応し、学部・学科の見直しを行ってきました。私学事業団が私立大学等の学部・学科の動向や入学定員充足率等の推移を毎年度継続して分析し、広く公表することは、学校法人の今後の経営改善・教育改革の一助となるものと考えています。

令和3年度は、18歳人口が前年度に比べ約2万6千人減少しました。18歳人口の減少期にある中、学生募集の取組みにさらなる工夫・努力が必要となります。

志願者数、入学者数の動向は、学校法人の経営を考えるうえで重要な要素の一つです。本報告書が学校法人をはじめ私学関係者の皆様に広くご活用いただけることを願っております。

最後に、お忙しい中、「学校法人基礎調査」にご協力くださいました学校法人の皆様には、厚く御礼を申し上げます。

令和3(2021)年9月

日本私立学校振興・共済事業団

私学経営情報センター 私学情報室

集計の概要	1
-------	---

大 学

I 大学の概況	
1. 志願者数等の増減状況	2
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	3
II 区分ごとの動向(大学)	
1. 規模別の動向(大学)	4
2. 地域別の動向(大学・学校別)	12
3. 地域別の動向(大学・学部別)	24
4. 学部系統別の動向(大学)	36
5. 主な学部別の志願者・入学者動向(大学)	45
III 収容定員ごとの動向(大学)	
1. 全体の動向(大学)	48
2. 地域別の動向(大学)	49
IV 入学定員充足率等の推移(大学)	52

短期大学

V 短期大学の概況	
1. 志願者数等の増減状況	56
2. 志願倍率、合格率、歩留率、 入学定員充足率の状況	57
VI 区分ごとの動向(短期大学)	
1. 規模別の動向(短期大学)	58
2. 地域別の動向(短期大学・学校別)	66
3. 地域別の動向(短期大学・学科別)	78
4. 学科系統別の動向(短期大学)	90
5. 主な学科別の志願者・入学者動向(短期大学)	97
VII 入学定員充足率等の推移(短期大学)	100

大 学 院

VIII 大学院の概況	
1. 志願者数等の増減状況	104
IX 区分ごとの動向(大学院)	
1. 研究科系統別の動向(大学院)	106
2. 主な研究科別の志願者・入学者動向(大学院)	108

4. 学部系統別の動向（大学）

全学部を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学部系統区分については、47ページを参照）。

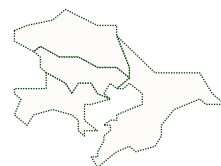
系統区分	年度	集計 学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R2	31	4,084	108,429	100,457	9,301	4,092	26.55	9.26	44.00	100.20
	R3	31	4,091	98,563	91,218	9,693	4,099	24.09	10.63	42.29	100.20
	増減	0	7	△ 9,866	△ 9,239	392	7	△ 2.46	1.37	△ 1.71	0.00
歯学	R2	17	2,039	9,187	8,330	3,843	1,692	4.51	46.13	44.03	82.98
	R3	17	2,015	7,564	6,832	3,563	1,528	3.75	52.15	42.89	75.83
	増減	0	△ 24	△ 1,623	△ 1,498	△ 280	△ 164	△ 0.76	6.02	△ 1.14	△ 7.15
薬学	R2	59	11,451	82,668	76,646	32,170	10,629	7.22	41.97	33.04	92.82
	R3	60	11,501	73,580	68,606	32,506	10,191	6.40	47.38	31.35	88.61
	増減	1	50	△ 9,088	△ 8,040	336	△ 438	△ 0.82	5.41	△ 1.69	△ 4.21
保健系	R2	244	37,221	200,366	192,496	78,539	37,721	5.38	40.80	48.03	101.34
	R3	254	38,143	188,155	180,494	80,307	38,130	4.93	44.49	47.48	99.97
	増減	10	922	△ 12,211	△ 12,002	1,768	409	△ 0.45	3.69	△ 0.55	△ 1.37
理・工学系	R2	157	62,107	842,140	807,262	257,766	63,949	13.56	31.93	24.81	102.97
	R3	162	62,626	751,179	719,116	281,649	63,192	11.99	39.17	22.44	100.90
	増減	5	519	△ 90,961	△ 88,146	23,883	△ 757	△ 1.57	7.24	△ 2.37	△ 2.07
農学系	R2	23	8,784	87,982	81,478	33,253	8,973	10.02	40.81	26.98	102.15
	R3	25	9,042	78,039	72,644	34,714	8,717	8.63	47.79	25.11	96.41
	増減	2	258	△ 9,943	△ 8,834	1,461	△ 256	△ 1.39	6.98	△ 1.87	△ 5.74
人文科学系	R2	245	68,104	608,854	584,635	186,184	70,067	8.94	31.85	37.63	102.88
	R3	245	68,184	520,901	501,151	199,642	67,710	7.64	39.84	33.92	99.30
	増減	0	80	△ 87,953	△ 83,484	13,458	△ 2,357	△ 1.30	7.99	△ 3.71	△ 3.58
社会科学系	R2	520	170,182	1,576,350	1,505,607	450,552	176,402	9.26	29.92	39.15	103.65
	R3	526	171,506	1,379,159	1,317,801	490,212	174,183	8.04	37.20	35.53	101.56
	増減	6	1,324	△ 197,191	△ 187,806	39,660	△ 2,219	△ 1.22	7.28	△ 3.62	△ 2.09
家政学	R2	84	16,373	70,601	67,542	34,403	15,992	4.31	50.94	46.48	97.67
	R3	83	16,133	60,407	56,819	33,126	15,183	3.74	58.30	45.83	94.11
	増減	△ 1	△ 240	△ 10,194	△ 10,723	△ 1,277	△ 809	△ 0.57	7.36	△ 0.65	△ 3.56
教育学	R2	103	17,855	118,849	113,950	41,340	17,871	6.66	36.28	43.23	100.09
	R3	104	17,832	100,983	96,453	40,613	16,834	5.66	42.11	41.45	94.40
	増減	1	△ 23	△ 17,866	△ 17,497	△ 727	△ 1,037	△ 1.00	5.83	△ 1.78	△ 5.69
体育学	R2	11	5,040	15,462	14,844	7,560	5,295	3.07	50.93	70.04	105.06
	R3	11	5,040	12,680	12,240	7,480	5,106	2.52	61.11	68.26	101.31
	増減	0	0	△ 2,782	△ 2,604	△ 80	△ 189	△ 0.55	10.18	△ 1.78	△ 3.75
芸術系	R2	58	14,332	57,849	55,885	23,540	15,257	4.04	42.12	64.81	106.45
	R3	56	14,069	53,220	51,130	23,320	14,744	3.78	45.61	63.22	104.80
	増減	△ 2	△ 263	△ 4,629	△ 4,755	△ 220	△ 513	△ 0.26	3.49	△ 1.59	△ 1.65
その他	R2	297	73,440	589,478	565,671	190,066	75,890	8.03	33.60	39.93	103.34
	R3	304	74,980	510,432	489,458	201,081	74,596	6.81	41.08	37.10	99.49
	増減	7	1,540	△ 79,046	△ 76,213	11,015	△ 1,294	△ 1.22	7.48	△ 2.83	△ 3.85
合計	R2	1,849	491,012	4,368,215	4,174,803	1,348,517	503,830	8.90	32.30	37.36	102.61
	R3	1,878	495,162	3,834,862	3,663,962	1,437,906	494,213	7.74	39.24	34.37	99.81
	増減	29	4,150	△ 533,353	△ 510,841	89,389	△ 9,617	△ 1.16	6.94	△ 2.99	△ 2.80

学部系統区分	
医学	医
歯学	歯/生命歯/口腔歯
薬学	薬
保健系	保健/看護/栄養/鍼灸/保健衛生/医療技術/看護福祉/保健福祉/医療衛生/保健科/産業保健/保健医療/医療福祉/リハビリテーション/医療/健康メディカル/健康医療科/看護栄養/保健看護/医療健康科/医療看護/医療健康/看護医療/医療科/看護リハビリテーション/ヒューマンケア/医療保健/総合リハビリテーション/医療福祉マネジメント/保健医療技術/保健医療福祉/健康福祉学群/リハビリテーション科/医療情報/看護保健/健康医療/健康医療スポーツ/国際看護/リハビリテーション（専門職）
理・工学系	理工/理/工/生産工/芸術工/基礎工/情報科/医用工/デザイン工/生物理工/環境/生命科/情報工/科学技術/フロンティアサイエンス/環境都市工/技能工芸/産業理工/化学生命工/創造理工/創造工/応用生命科/ソフトウェア情報/応用バイオ科/バイオサイエンス/バイオ・化/コンピュータサイエンス/建築/情報通信工/情報通信/生物生命/未来科/生物/基盤工/システムデザイン工/ロボティクス&デザイン工/建築都市工/基幹工/航空工/データサイエンス/航空・マネジメント学群/情報経営イノベーション（専門職）/先端理工/工科（専門職）
農学系	農/獣医/海洋/生物産業/生物資源科/生命環境/海洋生命科/獣医学群/農食環境学群/動物看護/食料産業/フードサービスマネジメント（専門職）
人文科学系	文/文芸/神/仏教/外国語/人文/国際言語文化/比較文化/国際文化/現代文化/人間/文化/人間関係/人文学科/心理/神道文化/こども心理/心理科/国際人文/国際英語/国際・英語/表象文化/現代心理/心身科/言語コミュニケーション/異文化コミュニケーション/グローバル教養/文化構想/子ども未来/心理こども/歴史/グローバル・コミュニケーション学部（群）/英語キャリア/臨床心理/グローバル地域文化/英語国際/総合心理/文化社会/教育人文/教育・心理
社会科学系	社会/社会科/産業社会/社会福祉/法/政経/政治経済/経済/経営/商/商経/経営情報/情報/国際政治経済/経済情報/総合政策/人間社会/環境情報/社会情報/流通科/コミュニケーション/現代社会/流通情報/流通/人間福祉/経済科/国際経営/経営法/現代法/社会環境/現代日本社会/現代福祉/福祉社会/生涯福祉/観光/21世紀アジア/人間健康福祉/コミュニティ福祉/現代経営/コミュニティ政策/総合経営/マネジメント/シティライフ/総合福祉/ビジネス情報/総合社会/国際社会/政策/マネジメント創造/都市生活/サービス経営/福祉/総合マネジメント/国際観光/ビジネスデザイン/情報マネジメント/現代コミュニケーション/公益/経済経営/経営経済/現代マネジメント/観光ビジネス/アジア太平洋/知的財産/産業情報/社会システム科/現代ビジネス/地域政策/ネットワーク情報/福祉情報/社会イノベーション/政策情報/福祉総合/ビジネスマネジメント学群/ビジネス/工芸/情報社会/グローバルビジネス/地球社会共生/観光コミュニティ/地域創造/都市創造/国際社会科/観光経営/地域創生/情報連携/地域経営/公共/国際コミュニティ/地域共創/メディアビジネス/環境デザイン/社会共生/社会情報デザイン/事業創造（専門職）/情報（専門職）/経法商/アントレプレナーシップ
家政学	家政/生活科/人間生活/生活環境/食文化/健康プロデュース/栄養科/人間健康/服装/健康生活/食物栄養/食物栄養科/健康管理/管理栄養/現代生活/現代家政/服飾/健康栄養学部（群）/人間生活科/人間栄養/生活創造/食環境科/医療栄養/国際ファッション（専門職）/食健康科/生活創生
教育学	教育/児童/人間教育/人間発達/児童保育/保育/子ども/こども/発達科/子ども（こども）教育/発達教育/子ども生活/国際こども教育/子ども育成/人間開発/健康・スポーツ科/次世代教育/臨床教育/現代教育/学校教師/スポーツ健康政策/児童スポーツ教育/教育文化/保育児童/児童教育/心理・教育学群
体育学	体育/スポーツプロモーション
芸術系	芸術/美術/造形/音楽/デザイン/映画/ポピュラーカルチャー/アニメーション文化/メディア芸術/造形構想
その他	応用生物科/国際食料情報/地域環境科/地球環境科/人間文化/国際地域/国際交流/現代中国/国際コミュニケーション/健康科/教養/文理/学芸/人間科/国際関係/国際/不動産/スポーツ健康科/文化情報/総合情報/政策科/都市情報/国際情報/総合文化/ホスピタリティ・ツーリズム/メディア造形/基幹理工/現代ライフ/国際文化交流/表現/生命工/生命医科/生命・環境科/システム理工/先進理工/環境園芸/スポーツ科/総合人間科/知能情報/教育福祉/英語情報マネジメント/人間環境/人文社会学部（群）/メディアコミュニケーション/経営教育/メディア/キャリアデザイン/メディア情報/政策創造/情報メディア/現代人間/情報コミュニケーション/経営文化/文化創造/文化表現/医療経営管理/芸術情報/交流文化/国際福祉開発/現代教養/人間情報/社会安全/キャリア形成/国際日本/教育人間科/スポーツ/応用心理/国際教養/心理・福祉/生涯スポーツ/映像/メディア・芸術/総合人間/人間総合/未来デザイン/感性デザイン/マンガ/健康福祉/危機管理/リベラルアーツ学群/情報フロンティア/リベラルアーツ/グローバル・メディア・スタディーズ/グローバルスタディーズ/福祉健康/現代政策/応用生物/現代国際/総合文化政策/情報理工/生命健康科/バイオ環境/サービス創造/スポーツ健康/ライフデザイン/スポーツ・健康科/スポーツ人間/福祉貢献/モチベーション行動科/コミュニケーション文化/生物地球/生命/地域共創学群/総合数理/建築・環境/観光メディア文化/芸術文化学群/総合グローバル/国際キャリア/先進工/福祉心理/国際リベラルアーツ/人間社会学群/心理社会/グローバル/人間共生/創造表現/スポーツ文化/世界共生/心理・医療福祉マネジメント/健康/スポーツマネジメント/人間総合学群/国際貢献/食マネジメント/地域マネジメント/コミュニティ人間科/世界教養/建築都市デザイン/健康スポーツ/健康科（専門職）/グローバル・リベラルアーツ/アニメ・マンガ（専門職）/メディア表現/建築&芸術

※令和2年度及び3年度の集計学部を『今日の私学財政』と同様に区分した。

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版

- 埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県 -



【将来予測 2020～2032年】

▶ 18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2020年305,457人→2032年288,670人（16,787人減少）
- ・ 減少率が高いのは、千葉県（2020年比較9.9%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、埼玉県（2020年65,634人→2032年59,587人、6,047人減少）。

【経過推移 2011～2020年】

▶ 進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2011年144,689人→2020年159,675人（14,986人増加）と、10.4%増加。
- ・ 短期大学は、2011年11,863人→2020年8,202人（3,661人減少）と、30.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年36,217人→2020年43,849人（7,632人増加）と、21.1%増加。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年56.0%→2020年58.6%（2.6ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年4.6%→2020年3.0%（1.6ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年14.0%→2020年16.1%（2.1ポイント上昇）

▶ 地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2011年48.1%→2020年48.0%（0.1ポイント低下）
- ・ 短期大学は、2011年59.9%→2020年62.1%（2.2ポイント上昇）

▶ 南関東エリア概要(全体：都県別) P14～P15

■分析・データについて

- 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口=3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業生数
 - ・ 中学校卒業生数=高校生+フリーター+就職者 全て含む
- 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。（年=年度）
- 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- 卒業生数とは、高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- 進学率(現役)とは、進学者数(大学・短期大学・専修学校専門課程(専門学校))÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)で算出した。
- 残留率とは、自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)
- 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

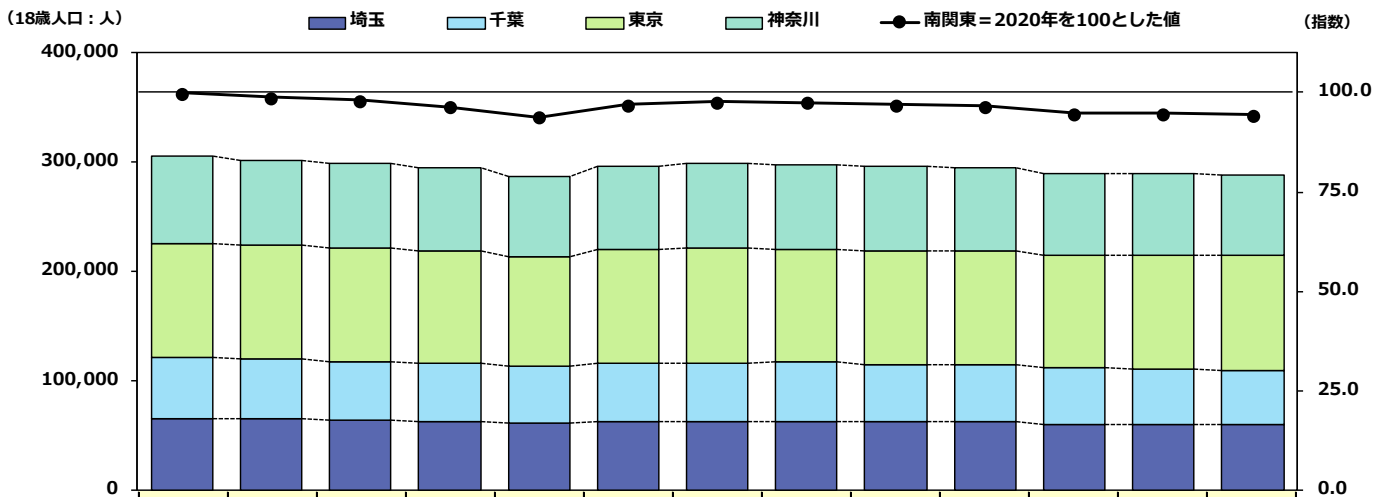
※専門学校=専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：南関東：2020～2032年）

■ 2020年305,457人→2032年288,670人（16,787人減少）

- ・南関東エリアは12年間で16,787人・5.5%減少し、全国の減少率12.3%を6.8ポイント下回る。
- ・2024年に286,935人まで減少した後、2026年まで増加し続けるが、以降は再び減少に転じる。
- ・減少率が高いのは、千葉県（2020年比較9.9%減少）。
- ・減少数が多いのは、埼玉県（2020年65,634人→2032年59,587人、6,047人減少）。



		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
埼玉	人数	65,634	64,508	63,542	62,543	61,183	62,797	62,864	62,858	62,493	61,849	60,036	59,723	59,587
	指数	100.0	98.3	96.8	95.3	93.2	95.7	95.8	95.8	95.2	94.2	91.5	91.0	90.8
千葉	人数	55,220	54,908	53,904	53,438	51,411	52,883	52,926	53,796	52,669	52,233	51,260	50,271	49,742
	指数	100.0	99.4	97.6	96.8	93.1	95.8	95.8	97.4	95.4	94.6	92.8	91.0	90.1
東京	人数	105,200	104,150	104,018	102,330	100,133	104,347	106,120	103,176	103,784	104,068	103,144	104,317	105,791
	指数	100.0	99.0	98.9	97.3	95.2	99.2	100.9	98.1	98.7	98.9	98.0	99.2	100.6
神奈川	人数	79,403	78,433	77,892	76,186	74,208	76,178	76,880	77,980	76,991	77,104	75,135	75,021	73,550
	指数	100.0	98.8	98.1	95.9	93.5	95.9	96.8	98.2	97.0	97.1	94.6	94.5	92.6

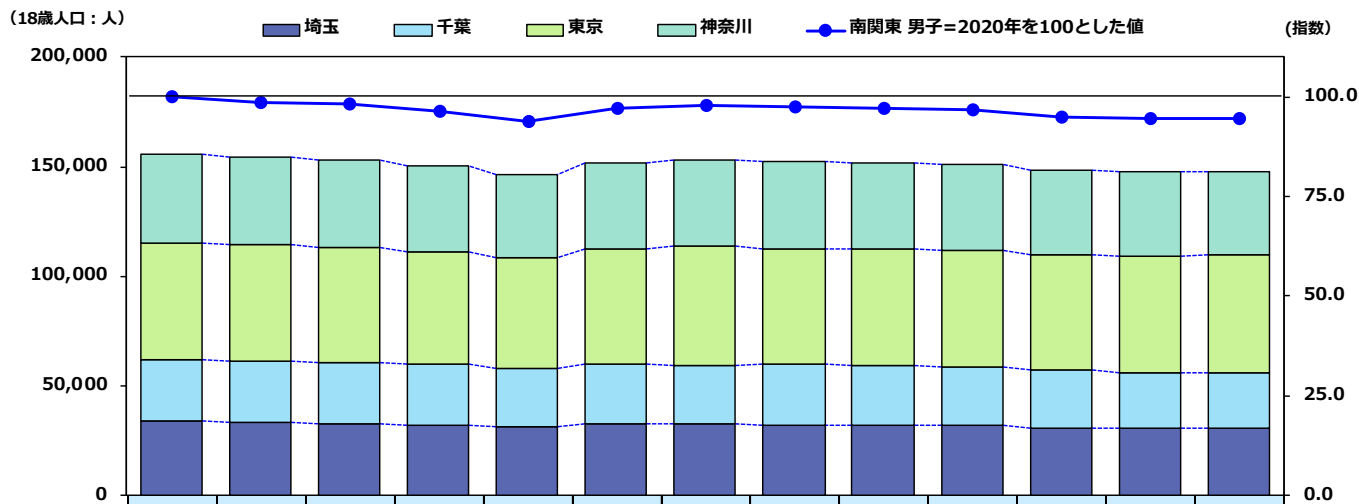
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：南関東：2020～2032年）

■ 2020年156,005人→2032年147,738人（8,267人減少）

- ・ 男子は12年間で8,267人・5.3%減少し、全国の減少率12.3%を7.0ポイント下回る。
- ・ 2024年に146,555人まで減少し、2026年までに6,385人増加した後、2032年まで微減が続く。
- ・ 減少率が高いのは、埼玉県（2020年比較10.5%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、埼玉県（2020年33,923人→2032年30,374人、3,549人減少）。



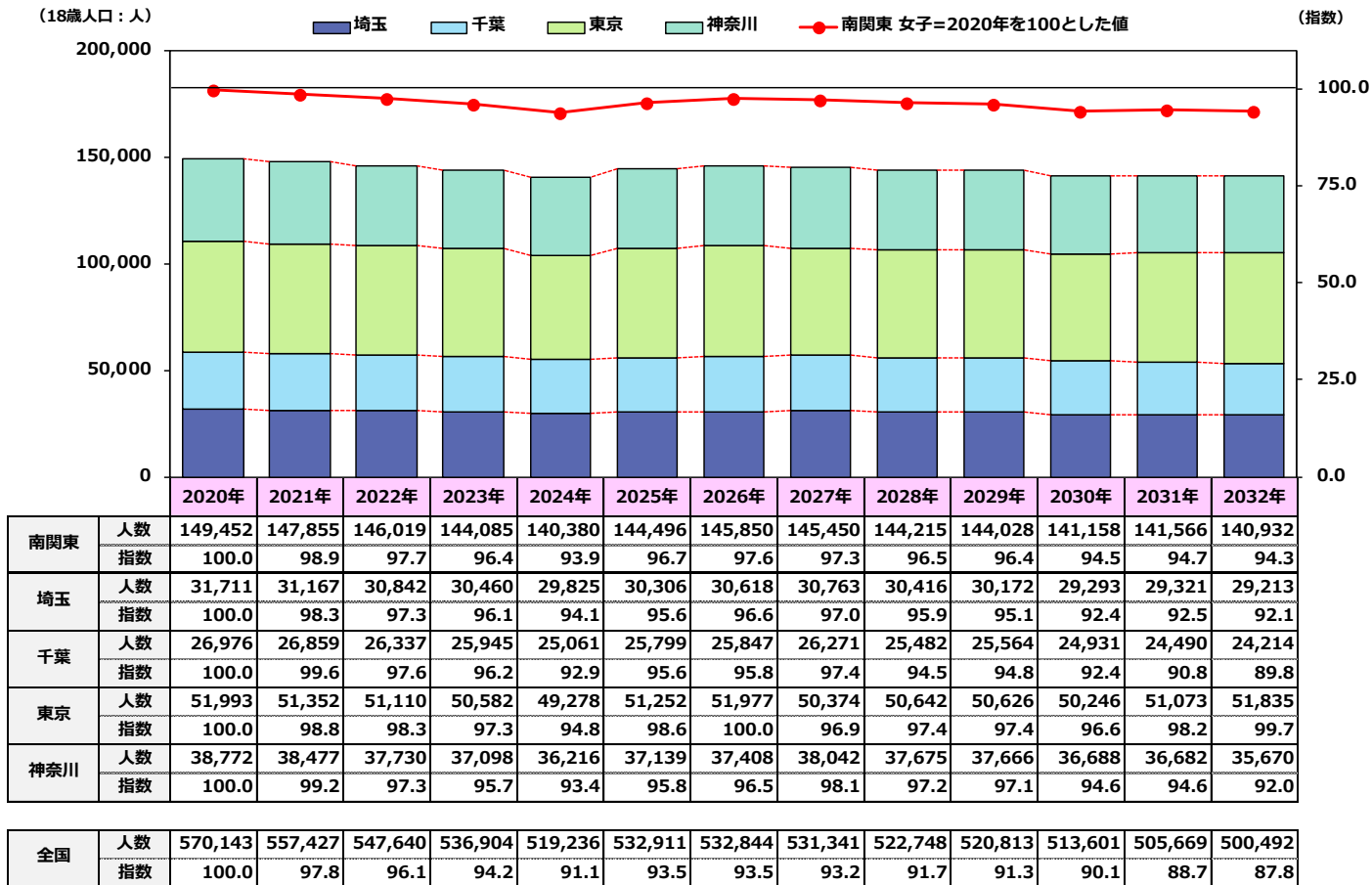
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
南関東	人数	156,005	154,144	153,337	150,412	146,555	151,709	152,940	152,360	151,722	151,226	148,417	147,766	147,738
	指数	100.0	98.8	98.3	96.4	93.9	97.2	98.0	97.7	97.3	96.9	95.1	94.7	94.7
埼玉	人数	33,923	33,341	32,700	32,083	31,358	32,491	32,246	32,095	32,077	31,677	30,743	30,402	30,374
	指数	100.0	98.3	96.4	94.6	92.4	95.8	95.1	94.6	94.6	93.4	90.6	89.6	89.5
千葉	人数	28,244	28,049	27,567	27,493	26,350	27,084	27,079	27,525	27,187	26,669	26,329	25,781	25,528
	指数	100.0	99.3	97.6	97.3	93.3	95.9	95.9	97.5	96.3	94.4	93.2	91.3	90.4
東京	人数	53,207	52,798	52,908	51,748	50,855	53,095	54,143	52,802	53,142	53,442	52,898	53,244	53,956
	指数	100.0	99.2	99.4	97.3	95.6	99.8	101.8	99.2	99.9	100.4	99.4	100.1	101.4
神奈川	人数	40,631	39,956	40,162	39,088	37,992	39,039	39,472	39,938	39,316	39,438	38,447	38,339	37,880
	指数	100.0	98.3	98.8	96.2	93.5	96.1	97.1	98.3	96.8	97.1	94.6	94.4	93.2
全国	人数	597,205	583,713	573,645	560,512	543,634	557,059	559,274	555,232	547,718	547,476	536,276	528,879	523,471
	指数	100.0	97.7	96.1	93.9	91.0	93.3	93.6	93.0	91.7	91.7	89.8	88.6	87.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：南関東：2020～2032年）

■ 2020年149,452人→2032年140,932人（8,520人減少）

- ・女子は12年間で8,520人・5.7%減少し、全国の減少率12.2%を6.5ポイント下回る。
- ・2024年に140,380人まで減少し、翌年2025年に4,116人増加した後、2032年まで減少。
- ・減少率が高いのは、千葉県（2020年比較10.2%減少）。
- ・減少数が多いのは、神奈川県（2020年38,772人→2032年35,670人、3,102人減少）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：南関東：2011～2020年）

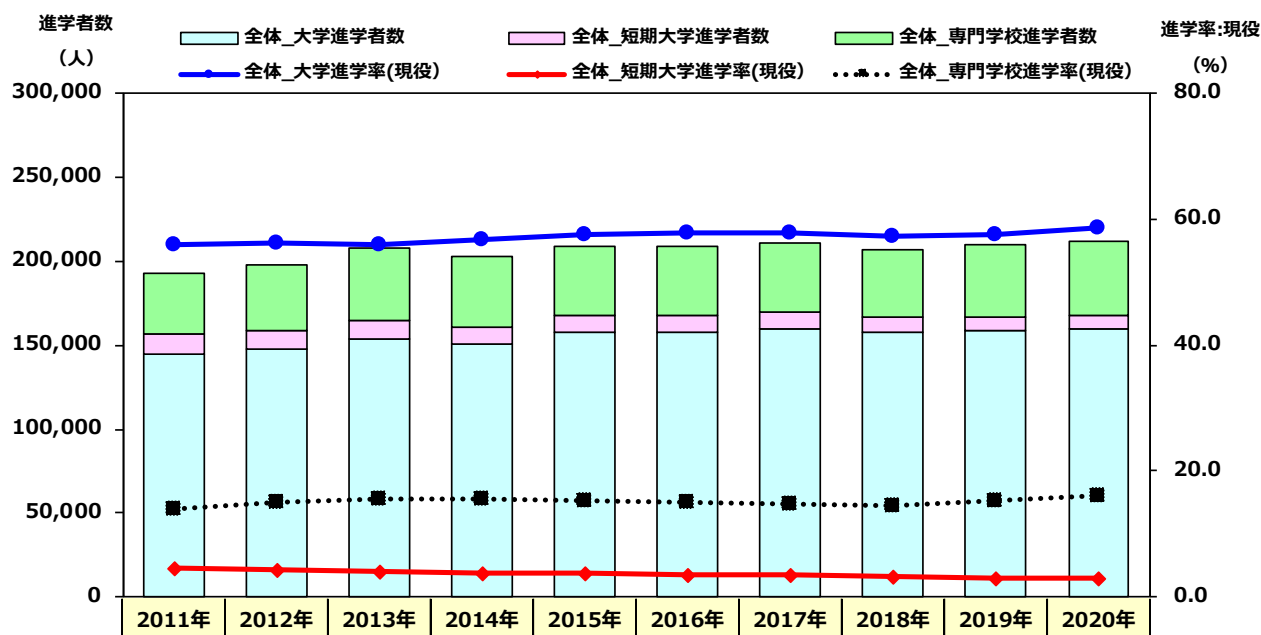
- 10年で大学進学率が2.6ポイント、専門学校は2.1ポイント上昇。
- 一方、短期大学では1.6ポイント低下。

進学者数（現役）

- ・ 大学は、2011年144,689人→2020年159,675人（14,986人増加）と、10.4%増加。
- ・ 短期大学は、2011年11,863人→2020年8,202人（3,661人減少）と、30.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年36,217人→2020年43,849人（7,632人増加）と、21.1%増加。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年56.0%→2020年58.6%（2.6ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年4.6%→2020年3.0%（1.6ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年14.0%→2020年16.1%（2.1ポイント上昇）



		南関東										
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
南関東	卒業生数	258,475	262,514	274,289	265,566	272,945	273,689	277,147	275,934	276,073	272,506	
	進学者数	大学	144,689	147,703	153,626	150,636	157,421	158,134	160,276	158,255	158,870	159,675
		短期大学	11,863	11,344	11,083	10,442	10,419	9,904	9,394	8,980	8,449	8,202
		専門学校	36,217	39,373	42,923	41,632	41,657	41,414	40,936	39,951	42,357	43,849
	進学率 (現役)	大学	56.0	56.3	56.0	56.7	57.7	57.8	57.8	57.4	57.5	58.6
		短期大学	4.6	4.3	4.0	3.9	3.8	3.6	3.4	3.3	3.1	3.0
専門学校		14.0	15.0	15.6	15.7	15.3	15.1	14.8	14.5	15.3	16.1	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
埼玉	卒業生数	54,160	55,086	57,520	55,057	57,093	57,150	57,262	56,970	56,992	56,643	
	進学者数	大学	27,968	28,524	29,505	28,425	29,860	29,801	30,311	30,037	30,241	30,715
		短期大学	2,798	2,747	2,859	2,639	2,694	2,599	2,542	2,407	2,372	2,286
		専門学校	8,765	9,414	10,154	9,687	9,906	9,791	9,544	9,679	10,139	10,384
	進学率 (現役)	大学	51.6	51.8	51.3	51.6	52.3	52.1	52.9	52.7	53.1	54.2
		短期大学	5.2	5.0	5.0	4.8	4.7	4.5	4.4	4.2	4.2	4.0
専門学校		16.2	17.1	17.7	17.6	17.4	17.1	16.7	17.0	17.8	18.3	
千葉	卒業生数	45,990	46,565	49,111	47,553	49,065	48,944	49,330	49,149	48,998	48,289	
	進学者数	大学	22,938	23,166	24,196	23,617	25,119	25,390	25,594	25,526	25,256	25,317
		短期大学	2,193	2,122	2,132	1,967	2,011	1,982	1,800	1,770	1,636	1,635
		専門学校	7,703	8,347	9,082	9,038	9,064	8,734	8,766	8,828	9,352	9,412
	進学率 (現役)	大学	49.9	49.7	49.3	49.7	51.2	51.9	51.9	51.9	51.5	52.4
		短期大学	4.8	4.6	4.3	4.1	4.1	4.0	3.6	3.6	3.3	3.4
専門学校		16.7	17.9	18.5	19.0	18.5	17.8	17.8	18.0	19.1	19.5	
東京	卒業生数	97,511	99,042	102,657	99,359	101,482	101,558	103,462	102,928	102,864	101,281	
	進学者数	大学	60,179	61,676	63,798	62,684	64,973	65,084	65,931	64,435	65,016	65,530
		短期大学	3,560	3,374	3,080	2,946	2,806	2,536	2,347	2,220	1,986	1,986
		専門学校	11,055	11,955	13,256	12,563	12,024	12,431	12,082	10,851	11,902	12,316
	進学率 (現役)	大学	61.7	62.3	62.1	63.1	64.0	64.1	63.7	62.6	63.2	64.7
		短期大学	3.7	3.4	3.0	3.0	2.8	2.5	2.3	2.2	1.9	2.0
専門学校		11.3	12.1	12.9	12.6	11.8	12.2	11.7	10.5	11.6	12.2	
神奈川	卒業生数	60,814	61,821	65,001	63,597	65,305	66,037	67,093	66,887	67,219	66,293	
	進学者数	大学	33,604	34,337	36,127	35,910	37,469	37,859	38,440	38,257	38,357	38,113
		短期大学	3,312	3,101	3,012	2,890	2,908	2,787	2,705	2,583	2,455	2,295
		専門学校	8,694	9,657	10,431	10,344	10,663	10,458	10,544	10,593	10,964	11,737
	進学率 (現役)	大学	55.3	55.5	55.6	56.5	57.4	57.3	57.3	57.2	57.1	57.5
		短期大学	5.4	5.0	4.6	4.5	4.5	4.2	4.0	3.9	3.7	3.5
専門学校		14.3	15.6	16.0	16.3	16.3	15.8	15.7	15.8	16.3	17.7	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：南関東：2011～2020年）

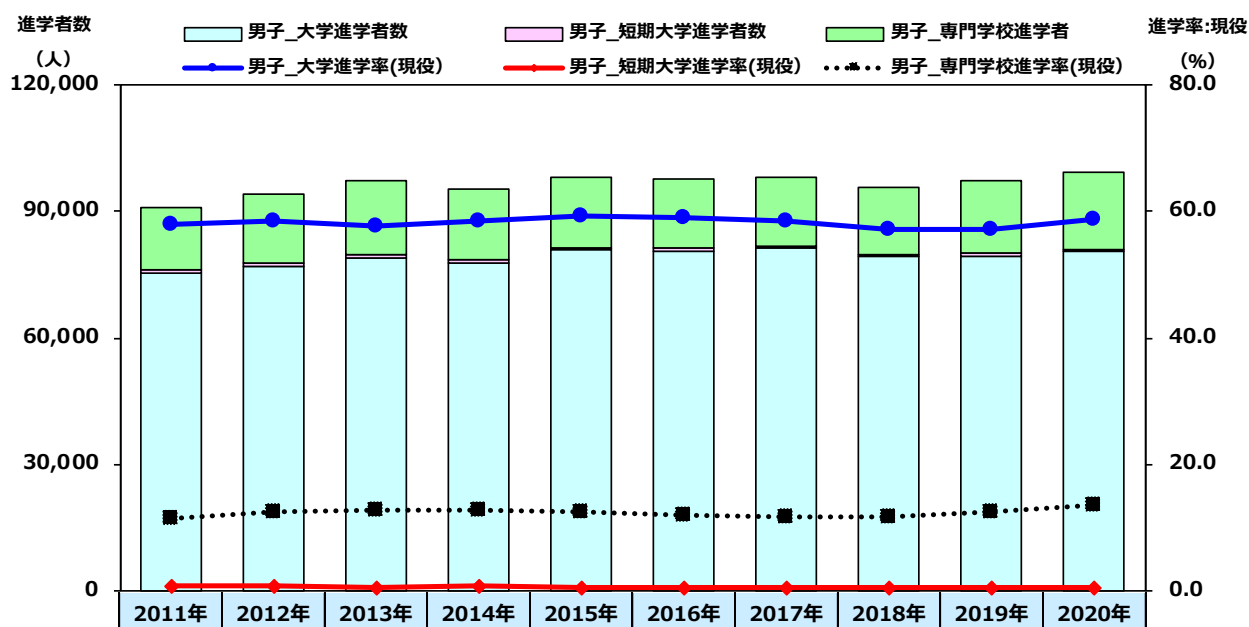
- 男子では、大学進学率は0.9ポイント上昇、専門学校では2.2ポイント上昇。一方、短期大学では進学率0.3ポイント低下している。

進学者数

- ・ 大学は、2011年75,336人→2020年80,484人（5,148人増加）と、6.8%増加。
- ・ 短期大学は、2011年875人→2020年616人（259人減少）と、29.6%減少。
- ・ 専門学校は、2011年14,713人→2020年18,436人（3,723人増加）と、25.3%増加。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年57.9%→2020年58.8%（0.9ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年0.7%→2020年0.4%（0.3ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年11.3%→2020年13.5%（2.2ポイント上昇）



南関東	卒業生数		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
				130,023	131,868	137,072	133,019	136,639	136,740	138,763	138,478	138,535
進学者数	大学		75,336	77,046	79,085	77,699	80,834	80,704	81,294	79,401	79,441	80,484
	短期大学		875	767	738	733	685	644	568	557	617	616
	専門学校		14,713	16,316	17,492	16,962	16,768	16,390	16,209	15,879	17,315	18,436
進学率 (現役)	大学		57.9	58.4	57.7	58.4	59.2	59.0	58.6	57.3	57.3	58.8
	短期大学		0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
	専門学校		11.3	12.4	12.8	12.8	12.3	12.0	11.7	11.5	12.5	13.5

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
埼玉	卒業生数	28,024	28,421	29,631	28,308	29,346	29,251	29,449	29,514	29,476	29,341	
	進学者数	大学	15,723	15,968	16,395	15,717	16,561	16,197	16,540	16,243	16,284	16,622
		短期大学	178	154	162	144	153	136	130	122	136	184
		専門学校	3,532	3,907	4,151	3,903	3,910	3,841	3,837	3,872	4,188	4,289
	進学率 (現役)	大学	56.1	56.2	55.3	55.5	56.4	55.4	56.2	55.0	55.2	56.7
		短期大学	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.6
専門学校		12.6	13.7	14.0	13.8	13.3	13.1	13.0	13.1	14.2	14.6	
千葉	卒業生数	23,305	23,630	24,764	23,958	24,911	24,840	24,958	25,092	25,000	24,567	
	進学者数	大学	12,492	12,667	13,054	12,677	13,599	13,624	13,507	13,441	13,340	13,272
		短期大学	169	171	156	163	142	145	124	129	142	140
		専門学校	3,011	3,246	3,524	3,461	3,502	3,391	3,383	3,541	3,750	3,932
	進学率 (現役)	大学	53.6	53.6	52.7	52.9	54.6	54.8	54.1	53.6	53.4	54.0
		短期大学	0.7	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6
専門学校		12.9	13.7	14.2	14.4	14.1	13.7	13.6	14.1	15.0	16.0	
東京	卒業生数	48,047	48,604	50,018	48,733	49,534	49,494	50,527	50,337	50,382	49,579	
	進学者数	大学	29,199	29,959	30,545	30,256	30,901	30,958	31,067	30,098	30,319	31,007
		短期大学	350	277	255	253	228	226	157	175	184	153
		専門学校	4,740	5,321	5,689	5,481	5,159	5,202	5,003	4,377	4,989	5,348
	進学率 (現役)	大学	60.8	61.6	61.1	62.1	62.4	62.5	61.5	59.8	60.2	62.5
		短期大学	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.4	0.3
専門学校		9.9	10.9	11.4	11.2	10.4	10.5	9.9	8.7	9.9	10.8	
神奈川	卒業生数	30,647	31,213	32,659	32,020	32,848	33,155	33,829	33,535	33,677	33,442	
	進学者数	大学	17,922	18,452	19,091	19,049	19,773	19,925	20,180	19,619	19,498	19,583
		短期大学	178	165	165	173	162	137	157	131	155	139
		専門学校	3,430	3,842	4,128	4,117	4,197	3,956	3,986	4,089	4,388	4,867
	進学率 (現役)	大学	58.5	59.1	58.5	59.5	60.2	60.1	59.7	58.5	57.9	58.6
		短期大学	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	0.4	0.5	0.4
専門学校		11.2	12.3	12.6	12.9	12.8	11.9	11.8	12.2	13.0	14.6	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：南関東：2011～2020年）

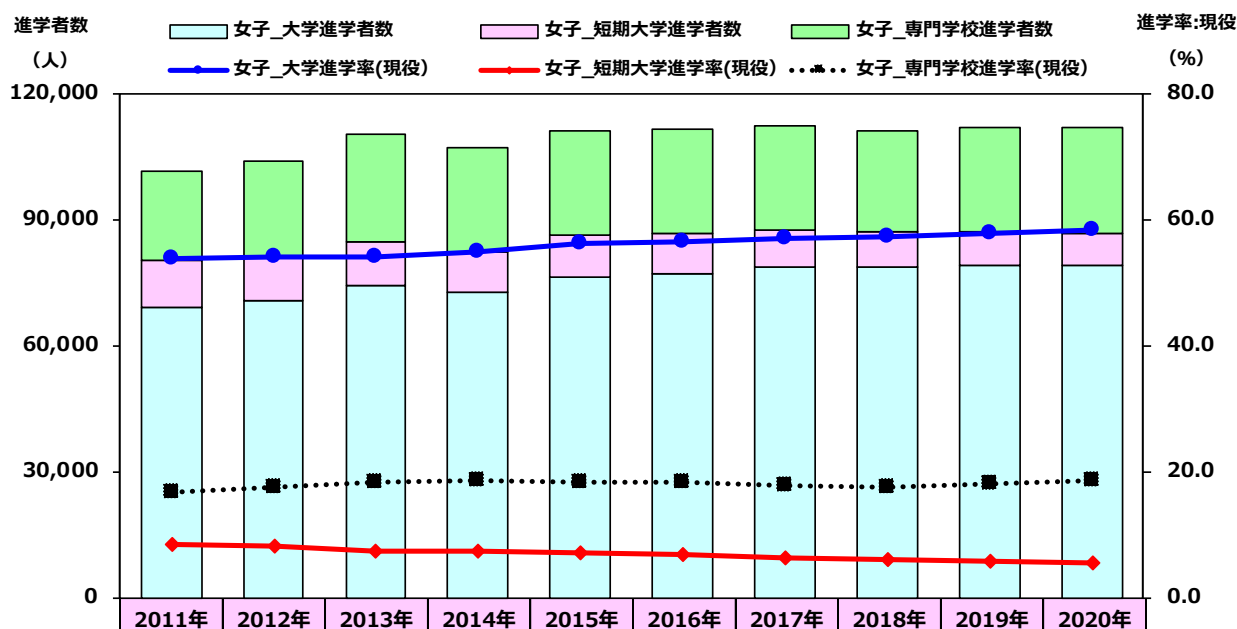
■ 女子では、大学進学率が4.4ポイント上昇し、進学者数も9,838人増加、専門学校も進学者数が3,909人増加する一方、短期大学は進学者数が3,402人減少。

進学者数

- ・ 大学は、2011年69,353人→2020年79,191人（9,838人増加）と、14.2%増加。
- ・ 短期大学は、2011年10,988人→2020年7,586人（3,402人減少）と、31.0%減少。
- ・ 専門学校は、2011年21,504人→2020年25,413人（3,909人増加）と、18.2%増加。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年54.0%→2020年58.4%（4.4ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年8.6%→2020年5.6%（3.0ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年16.7%→2020年18.7%（2.0ポイント上昇）



南関東	卒業生数		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
				128,452	130,646	137,217	132,547	136,306	136,949	138,384	137,456	137,538
進学者数	大学		69,353	70,657	74,541	72,937	76,587	77,430	78,982	78,854	79,429	79,191
	短期大学		10,988	10,577	10,345	9,709	9,734	9,260	8,826	8,423	7,832	7,586
	専門学校		21,504	23,057	25,431	24,670	24,889	25,024	24,727	24,072	25,042	25,413
進学率(現役)	大学		54.0	54.1	54.3	55.0	56.2	56.5	57.1	57.4	57.8	58.4
	短期大学		8.6	8.1	7.5	7.3	7.1	6.8	6.4	6.1	5.7	5.6
	専門学校		16.7	17.6	18.5	18.6	18.3	18.3	17.9	17.5	18.2	18.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
埼玉	卒業生数	26,136	26,665	27,889	26,749	27,747	27,899	27,813	27,456	27,516	27,302	
	進学者数	大学	12,245	12,556	13,110	12,708	13,299	13,604	13,771	13,794	13,957	14,093
		短期大学	2,620	2,593	2,697	2,495	2,541	2,463	2,412	2,285	2,236	2,102
		専門学校	5,233	5,507	6,003	5,784	5,996	5,950	5,707	5,807	5,951	6,095
	進学率 （現役）	大学	46.9	47.1	47.0	47.5	47.9	48.8	49.5	50.2	50.7	51.6
		短期大学	10.0	9.7	9.7	9.3	9.2	8.8	8.7	8.3	8.1	7.7
専門学校		20.0	20.7	21.5	21.6	21.6	21.3	20.5	21.2	21.6	22.3	
千葉	卒業生数	22,685	22,935	24,347	23,595	24,154	24,104	24,372	24,057	23,998	23,722	
	進学者数	大学	10,446	10,499	11,142	10,940	11,520	11,766	12,087	12,085	11,916	12,045
		短期大学	2,024	1,951	1,976	1,804	1,869	1,837	1,676	1,641	1,494	1,495
		専門学校	4,692	5,101	5,558	5,577	5,562	5,343	5,383	5,287	5,602	5,480
	進学率 （現役）	大学	46.0	45.8	45.8	46.4	47.7	48.8	49.6	50.2	49.7	50.8
		短期大学	8.9	8.5	8.1	7.6	7.7	7.6	6.9	6.8	6.2	6.3
専門学校		20.7	22.2	22.8	23.6	23.0	22.2	22.1	22.0	23.3	23.1	
東京	卒業生数	49,464	50,438	52,639	50,626	51,948	52,064	52,935	52,591	52,482	51,702	
	進学者数	大学	30,980	31,717	33,253	32,428	34,072	34,126	34,864	34,337	34,697	34,523
		短期大学	3,210	3,097	2,825	2,693	2,578	2,310	2,190	2,045	1,802	1,833
		専門学校	6,315	6,634	7,567	7,082	6,865	7,229	7,079	6,474	6,913	6,968
	進学率 （現役）	大学	62.6	62.9	63.2	64.1	65.6	65.5	65.9	65.3	66.1	66.8
		短期大学	6.5	6.1	5.4	5.3	5.0	4.4	4.1	3.9	3.4	3.5
専門学校		12.8	13.2	14.4	14.0	13.2	13.9	13.4	12.3	13.2	13.5	
神奈川	卒業生数	30,167	30,608	32,342	31,577	32,457	32,882	33,264	33,352	33,542	32,851	
	進学者数	大学	15,682	15,885	17,036	16,861	17,696	17,934	18,260	18,638	18,859	18,530
		短期大学	3,134	2,936	2,847	2,717	2,746	2,650	2,548	2,452	2,300	2,156
		専門学校	5,264	5,815	6,303	6,227	6,466	6,502	6,558	6,504	6,576	6,870
	進学率 （現役）	大学	52.0	51.9	52.7	53.4	54.5	54.5	54.9	55.9	56.2	56.4
		短期大学	10.4	9.6	8.8	8.6	8.5	8.1	7.7	7.4	6.9	6.6
専門学校		17.4	19.0	19.5	19.7	19.9	19.8	19.7	19.5	19.6	20.9	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

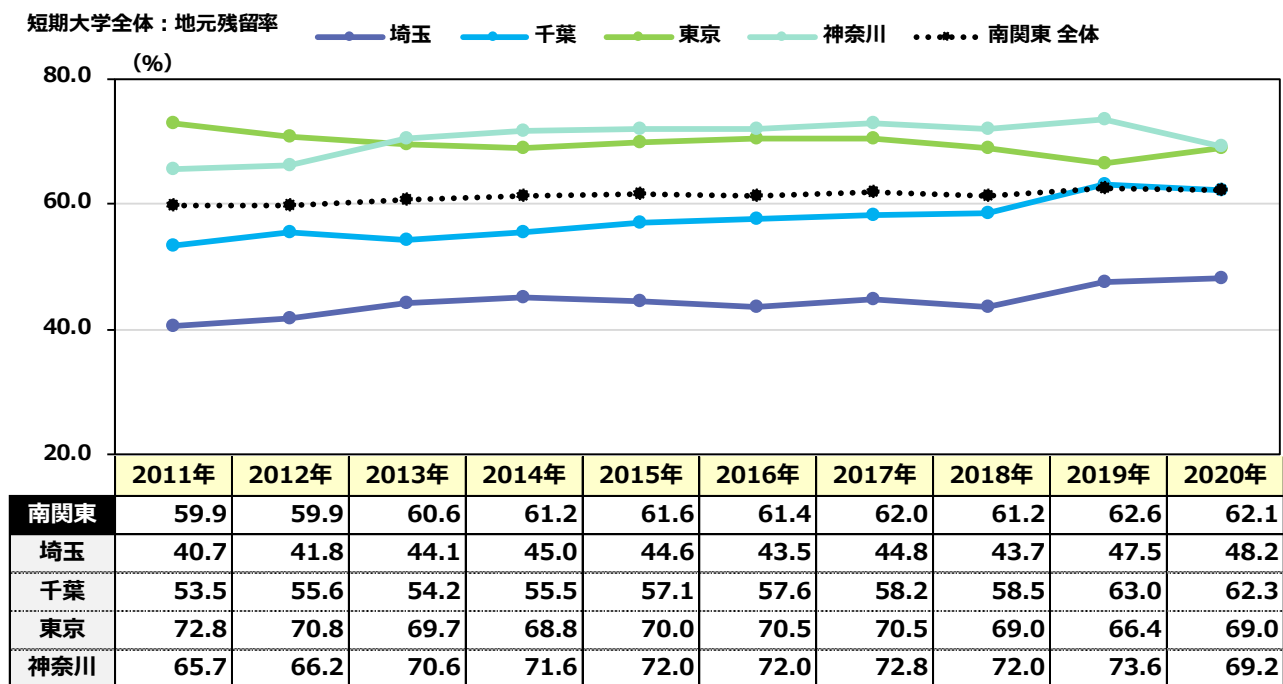
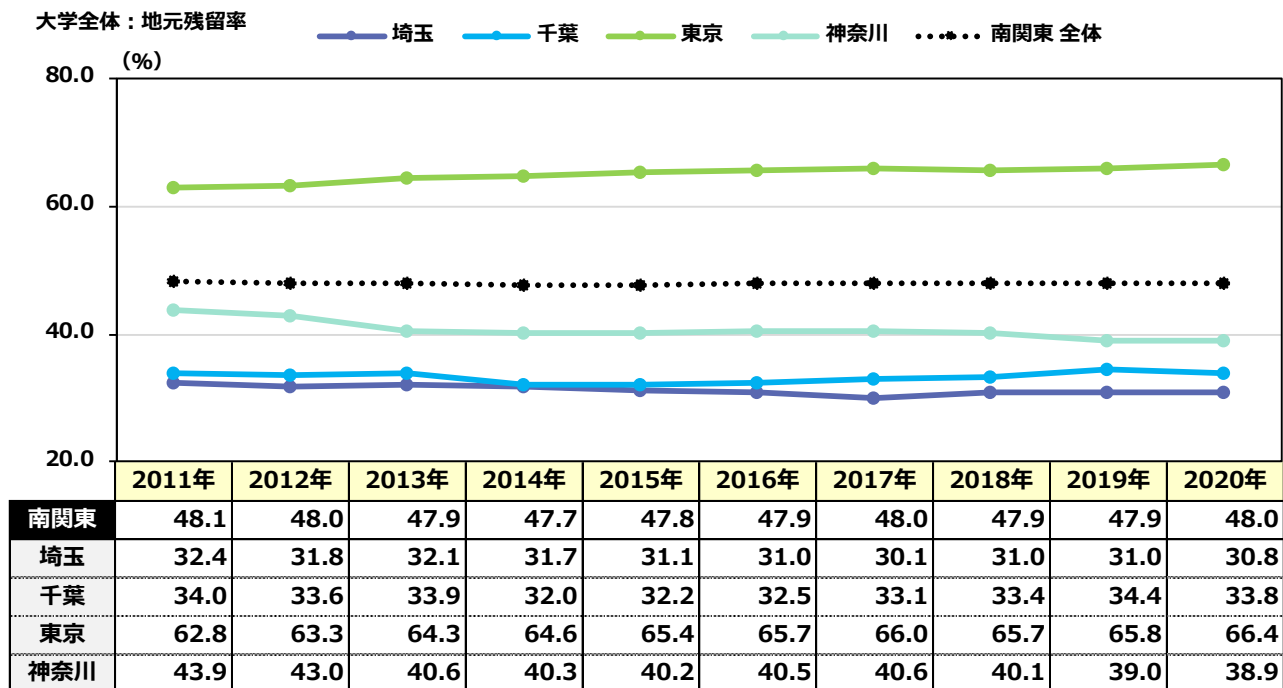
・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

地元残留率の推移 (全体：南関東：2011～2020年)

■ 大学は、2011年48.1%→2020年48.0% (0.1ポイント低下)
 短期大学は、2011年59.9%→2020年62.1% (2.2ポイント上昇)

- ・ 大学で上昇率が高いのは、東京都 (2011年62.8%→2020年66.4%、3.6ポイント上昇)。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、千葉県 (2011年53.5%→2020年62.3%、8.8ポイント上昇)。



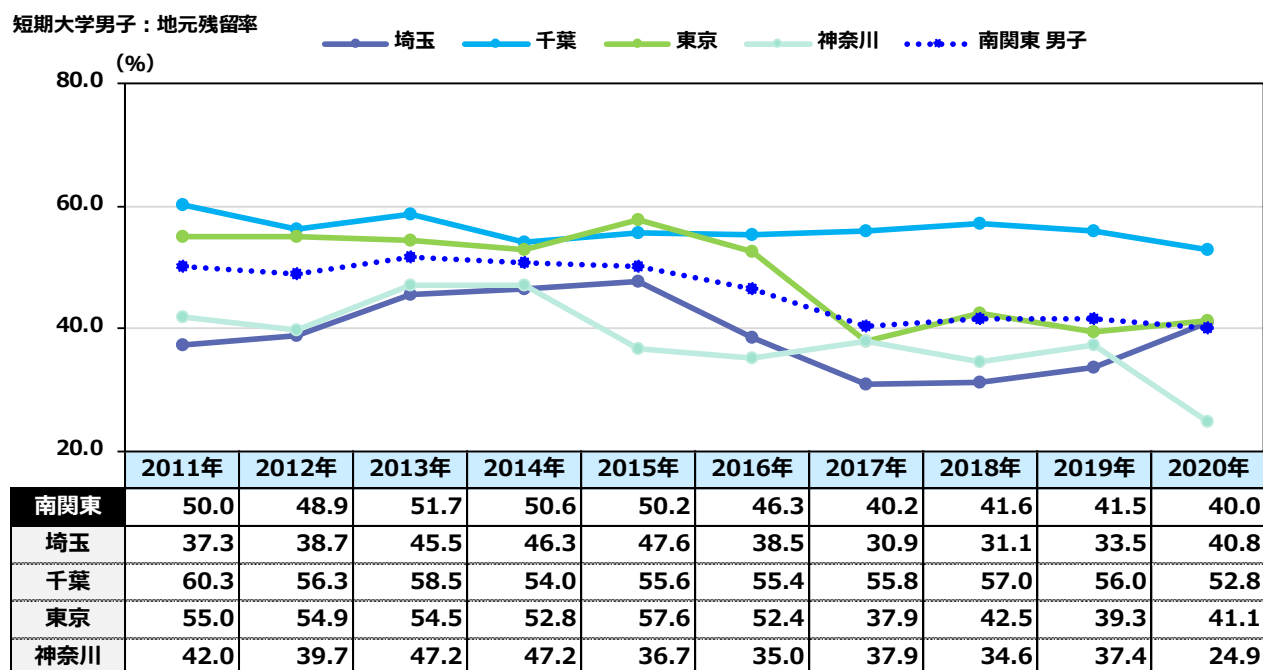
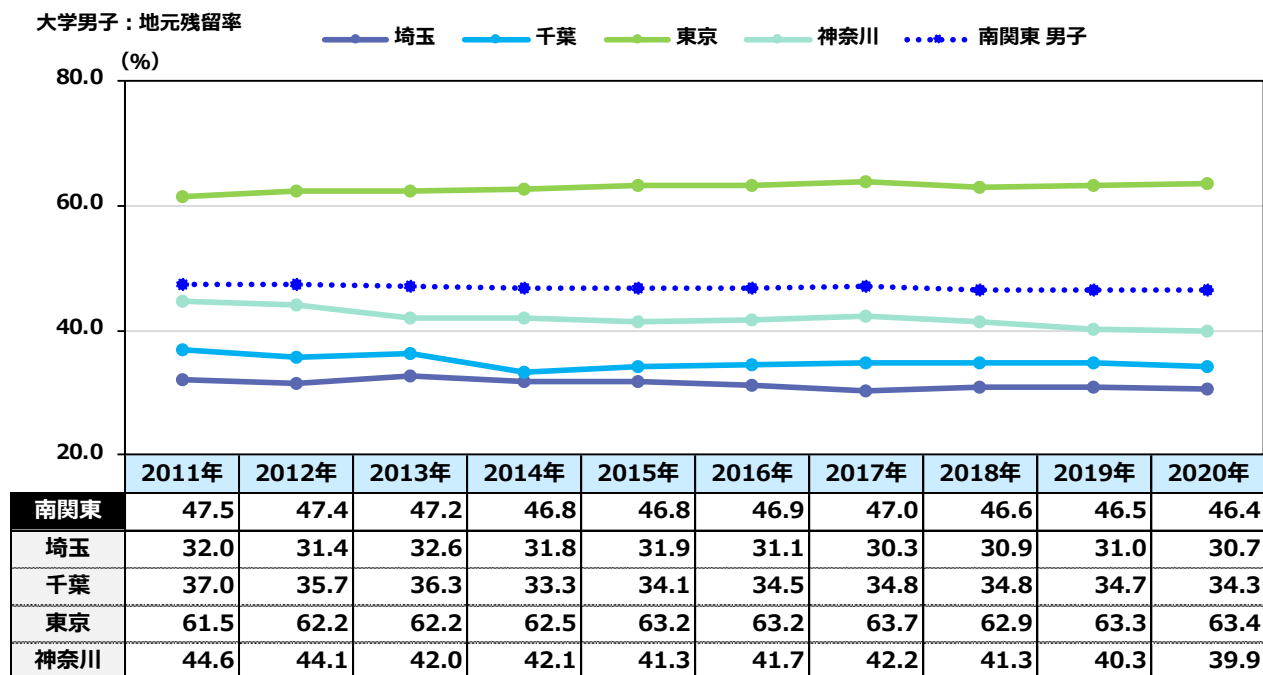
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学に入学者数の割合(浪人含)

地元残留率の推移 (男子：南関東：2011～2020年)

■ 大学は、2011年47.5%→2020年46.4% (1.1ポイント低下)
 短期大学は、2011年50.0%→2020年40.0% (10ポイント低下)

- ・ 大学で上昇率が高いのは、東京都 (2011年61.5%→2020年63.4%、1.9ポイント上昇)。
- ・ 短期大学で低下率が高いのは、神奈川県 (2011年42.0%→2020年24.9%、1.7ポイント低下)。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
 ・ 残留率：自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学に入学者数の割合(浪人含)

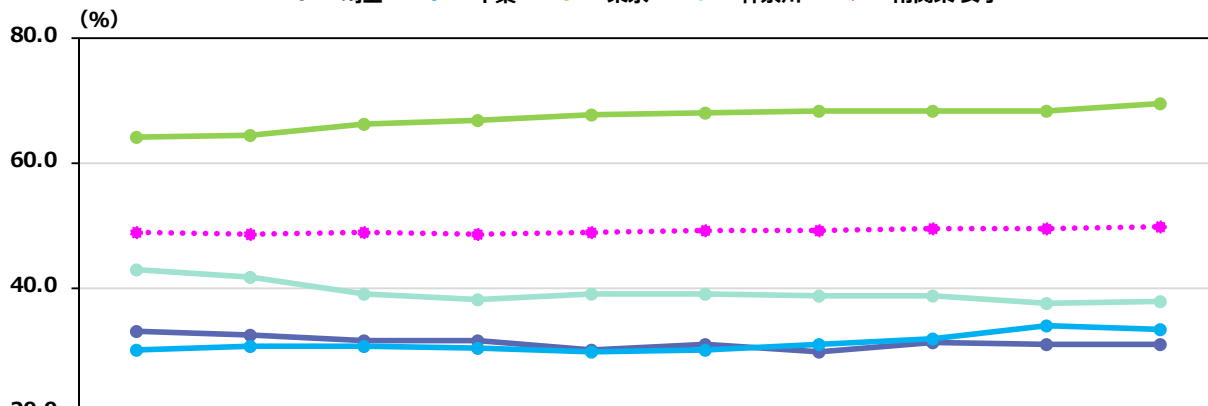
地元残留率の推移 (女子：南関東：2011～2020年)

■ 大学は、2011年48.8%→2020年49.9% (1.1ポイント上昇)
 短期大学は、2011年60.8%→2020年64.3% (3.5ポイント上昇)

- ・ 大学で上昇率が高いのは、東京都 (2011年64.2%→2020年69.5%、5.3ポイント上昇)。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、千葉県 (2011年52.7%→2020年63.3%、10.6ポイント上昇)。

大学女子：地元残留率

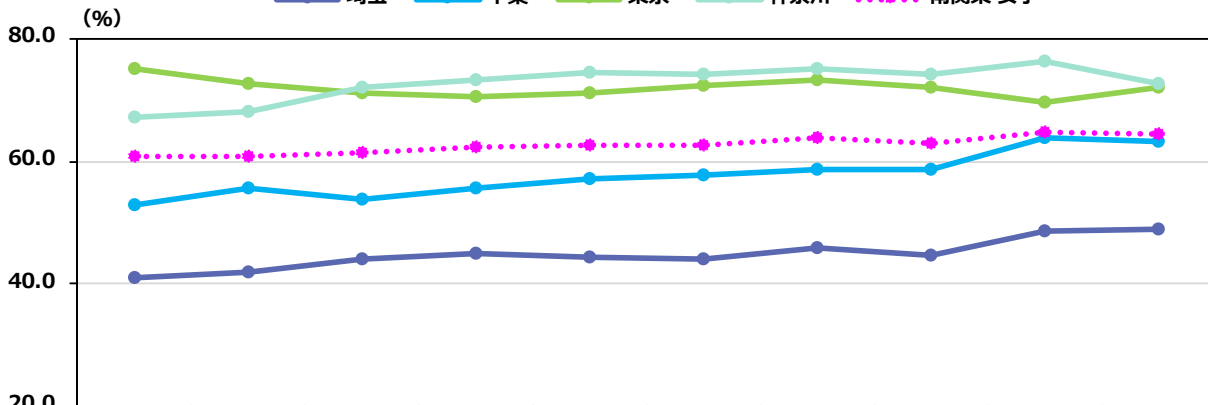
埼玉 千葉 東京 神奈川 南関東 女子



	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
南関東	48.8	48.7	48.8	48.7	49.0	49.2	49.2	49.4	49.5	49.9
埼玉	32.9	32.4	31.5	31.5	30.0	30.8	29.8	31.2	30.9	30.9
千葉	30.0	30.7	30.6	30.4	29.8	29.9	30.9	31.7	34.0	33.2
東京	64.2	64.5	66.4	66.9	67.7	68.2	68.3	68.5	68.4	69.5
神奈川	43.0	41.6	39.0	38.2	38.9	38.9	38.6	38.6	37.6	37.7

短期大学女子：地元残留率

埼玉 千葉 東京 神奈川 南関東 女子



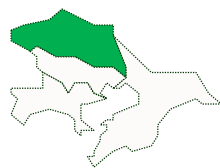
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
南関東	60.8	60.9	61.3	62.2	62.5	62.6	63.7	62.8	64.6	64.3
埼玉	41.0	42.0	44.0	44.9	44.4	43.9	45.8	44.5	48.5	48.9
千葉	52.7	55.5	53.8	55.7	57.2	57.8	58.5	58.6	63.7	63.3
東京	75.0	72.6	71.2	70.6	71.2	72.5	73.3	72.1	69.7	72.0
神奈川	67.3	68.0	72.2	73.4	74.5	74.2	75.2	74.3	76.2	72.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学に入学者数の割合(浪人含)

南関東エリア概要（全体：都県別）

埼玉県



学校数

大学 : 28 (国立 1・公立 1・私立 26)
短期大学 : 12 (私立 12)
専門学校 : 97 (国立 2・公立 5・私立 90)

卒業者数

2011年54,160人→2020年56,643人(2,483人増加)

進学者数

大学 : 2011年27,968人→2020年30,715人(2,747人増加)
短期大学 : 2011年 2,798人→2020年 2,286人(512人減少)
専門学校 : 2011年 8,765人→2020年10,384人(1,619人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年51.6%→2020年54.2%(2.6ポイント上昇)
短期大学 : 2011年 5.2%→2020年 4.0%(1.2ポイント低下)
専門学校 : 2011年16.2%→2020年18.3%(2.1ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年32.4%→2020年30.8%(1.6ポイント低下)
短期大学 : 2011年40.7%→2020年48.2%(7.5ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位東京(6,164人)、2位千葉(1,840人)、3位群馬(1,392人)
短期大学 : 1位東京(199人)、2位群馬(66人)、3位栃木(56人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京(17,332人)、2位千葉(2,047人)、3位神奈川(1,939人)
短期大学 : 1位東京(1,018人)、2位千葉(71人)、3位群馬(52人)

千葉県



学校数

大学 : 27 (国立 1・公立 1・私立 25)
短期大学 : 8 (私立 8)
専門学校 : 83 (公立 7・私立 76)

卒業者数

2011年45,990人→2020年48,289人(2,299人増加)

進学者数

大学 : 2011年22,938人→2020年25,317人(2,379人増加)
短期大学 : 2011年 2,193人→2020年 1,635人(558人減少)
専門学校 : 2011年 7,703人→2020年 9,412人(1,709人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年49.9%→2020年52.4%(2.5ポイント上昇)
短期大学 : 2011年 4.8%→2020年 3.4%(1.4ポイント低下)
専門学校 : 2011年16.7%→2020年19.5%(2.8ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年34.0%→2020年33.8%(0.2ポイント低下)
短期大学 : 2011年53.5%→2020年62.3%(8.8ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位東京(4,828人)、2位埼玉(2,047人)、3位茨城(2,018人)
短期大学 : 1位東京(108人)、2位茨城(85人)、3位埼玉(71人)

入学者流出先 ※地元は除く

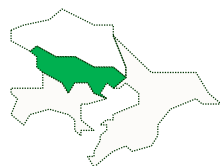
大学 : 1位東京(13,295人)、2位神奈川(2,101人)、3位埼玉(1,840人)
短期大学 : 1位東京(557人)、2位北海道(38人)、3位埼玉(37人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

南関東エリア概要 (全体：都県別)

東京都



学校数

大学 : 143 (国立 12・公立 2・私立 129)
 短期大学 : 37 (私立 37)
 専門学校 : 359 (国立 1・公立 8・私立 350)

卒業者数

2011年97,511人→2020年101,281人 (3,770人増加)

進学者数

大学 : 2011年60,179人→2020年65,530人 (5,351人増加)
 短期大学 : 2011年 3,560人→2020年 1,986人 (1,574人減少)
 専門学校 : 2011年11,055人→2020年12,136人 (1,081人増加)

進学率 (現役)

大学 : 2011年61.7%→2020年64.7% (3.0ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 3.7%→2020年 2.0% (1.7ポイント低下)
 専門学校 : 2011年11.3%→2020年12.2% (0.9ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年62.8%→2020年66.4% (3.6ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年72.8%→2020年69.0% (3.8ポイント低下)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位神奈川 (22,437人)、2位埼玉 (17,332人)、3位千葉 (13,295人)
 短期大学 : 1位埼玉 (1,018人)、2位神奈川 (605人)、3位千葉 (557人)

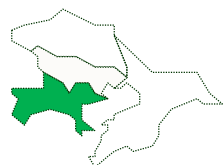
入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位神奈川 (10,133人)、2位埼玉 (6,164人)、3位千葉 (4,828人)
 短期大学 : 1位神奈川 (265人)、2位埼玉 (199人)、3位千葉 (108人)

学校数

大学 : 31 (国立 2・公立 2・私立 27)
 短期大学 : 14 (公立 1・私立 13)
 専門学校 : 101 (公立 5・私立 96)

神奈川県



卒業者数

2011年60,814人→2020年66,293人 (5,479人増加)

進学者数

大学 : 2011年33,604人→2020年38,113人 (4,509人増加)
 短期大学 : 2011年 3,312人→2020年 2,295人 (1,017人減少)
 専門学校 : 2011年 8,694人→2020年11,737人 (3,043人増加)

進学率 (現役)

大学 : 2011年55.3%→2020年57.5% (2.2ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.4%→2020年 3.5% (1.9ポイント低下)
 専門学校 : 2011年14.3%→2020年17.7% (3.4ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年43.9%→2020年38.9% (5.0ポイント低下)
 短期大学 : 2011年65.7%→2020年69.2% (3.5ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (10,133人)、2位静岡 (2,104人)、3位千葉 (2,101人)
 短期大学 : 1位東京 (265人)、2位静岡 (172人)、3位長野 (36人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (17,035人)、2位千葉 (912人)、3位埼玉 (909人)
 短期大学 : 1位東京 (605人)、2位北海道 (57人)、3位静岡 (30人)

- ・ 学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・ 卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・ 進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・ 進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・ 残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・ 流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・ 流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

南関東入学定員1000人以上の大学かつ社会学系学科の志願状況

出典：蛍雪時代、ガイドライン

入学定員(大 学全体)	大学名	学部名	学科名	17志願	17受験	17合格	18志願	18受験	18合格	19志願	19受験	19合格	20志願	20受験	20合格	21志願	21受験	21合格	17実質倍率	18実質倍率	19実質倍率	20実質倍率	21実質倍率
3,000人以上	青山学院	地球社会共生	地球社会共生	3,122	2,803	243	2,179	1,928	195	2,376	2,182	185	1,547	1,398	194	815	785	245	11.53	9.89	11.79	7.21	3.20
1000~1499	亜細亜	都市創造	都市創造	914	867	350	871	831	358	1,784	1,716	243	706	670	200	676	630	323	2.48	2.32	7.06	3.35	1.95
1500~2999	大妻女子	人間関係	人間関係-社会学	473	460	245	661	651	80	440	421	36	235	220	41	214	201	113	1.88	8.14	11.69	5.37	1.78
3,000人以上	駒澤	文	社会-社会学	1,268	1,241	317	1,525	1,494	252	1,489	1,454	200	992	972	218	987	966	265	3.91	5.93	7.27	4.46	3.65
1500~2999	上智	総合人間科学	社会	1,186	1,146	204	1,107	1,054	129	969	921	119	1,016	979	182	1,287	1,243	163	5.62	8.17	7.74	5.38	7.63
1500~2999	成城	文	現代社会	1,467	1,387	236	1,149	1,100	188	1,199	1,141	171	1,192	1,111	261	1,148	1,110	288	5.88	5.85	6.67	4.26	3.85
3,000人以上	専修	人間科学	社会(文学部)	1,455	1,381	453	2,729	2,608	348	2,022	1,913	337	2,128	2,002	559	1,984	1,875	576	3.05	7.49	5.68	3.58	3.26
1000~1499	大正	地域創生	地域創生	247	221	186	464	396	158	538	479	115	1,074	1,019	224	675	638	295	1.19	2.51	4.17	4.55	2.16
1500~2999	大東文化	社会	社会				2,048	1,997	325	1,721	1,650	396	1,781	1,708	482	1,807	1,753	603		6.14	4.17	3.54	2.91
3,000人以上	中央	文	社会学	1,242	1,150	302	1,146	1,060	155	776	665	192	1,019	911	207	698	649	203	3.81	6.84	3.46	4.40	3.20
3,000人以上	帝京	文	社会	580	554	408	906	883	454	1,358	1,314	322	1,021	982	299	906	866	284	1.36	1.94	4.08	3.28	3.05
3,000人以上	東海	国際文化(北海道)	地域創造	112	108	73	171	166	36	171	165	55	170	162	134	98	89	46	1.48	4.61	3.00	1.21	1.93
3,000人以上	東洋	社会	社会	4,897	4,897	928	3,514	3,514	642	4,496	4,496	741	3,581	3,581	866	3,876	3,876	1,014	5.28	5.47	6.07	4.14	3.82
3,000人以上	東洋	社会	国際社会(旧:社会文化システム)	1,845	1,845	512	2,776	2,776	459	1,904	1,904	499	2,789	2,789	794	2,149	2,149	684	6.05	3.82	3.51	3.11	3.14
3,000人以上	東洋	社会(第2部)	社会(二部)	728	728	296	985	985	198	1,023	1,023	213	823	823	208	761	761	310	2.46	4.97	4.80	3.96	2.45
3,000人以上	日本	文理	社会	2,353	2,308	558	1,964	1,933	498	2,014	1,958	417	2,428	2,318	664	2,266	2,165	693	4.14	3.88	4.70	3.49	3.12
1000~1499	日本女子	人間社会	現代社会	812	792	402	1,267	1,238	377	1,430	1,378	390	1,374	1,344	486	1,222	1,195	478	1.97	3.28	3.53	2.77	2.50
1000~1499	文京学院	人間	コミュニケーション社会(旧:共生社会)	457	261	206	608	416	269	813	645	246	1,218	981	172	840	562	192	1.27	1.55	2.62	5.70	2.93
3,000人以上	法政	社会	社会	5,127	4,930	895	4,893	4,728	750	5,809	5,606	788	4,305	4,128	820	3,957	3,819	739	5.51	6.30	7.11	5.03	5.17
3,000人以上	明治	文	社会-現代社会学	878	822	156	1,261	1,195	164	1,040	968	154	1,008	938	195	1,124	1,053	226	5.27	7.29	6.23	4.81	4.66
1500~2999	明治学院	社会	社会	2,590	2,536	767	3,327	3,268	666	3,100	3,023	371	1,714	1,677	388	2,283	2,235	420	3.31	4.91	8.15	4.32	5.32
1500~2999	明星	人文	人間社会	542	518	299	704	674	169	1,035	986	78	993	932	229	919	851	265	1.73	3.99	12.64	4.07	3.21
1000~1499	目白	社会	社会情報	491	471	265	602	584	215	838	811	183	1,053	1,031	141	563	536	187	1.78	2.72	4.43	7.31	2.87
1000~1499	目白	社会	地域社会	244	237	155	379	370	140	634	621	114	758	740	79	294	284	87	1.53	2.64	5.45	9.37	3.26
3,000人以上	立教	社会	社会	3,282	3,140	549	3,864	3,712	501	3,789	3,633	445	3,096	2,933	541	3,354	3,354	673	5.72	7.41	8.16	5.42	4.98
3,000人以上	立教	社会	現代文化	2,647	2,567	383	2,375	2,291	311	2,354	2,291	364	2,464	2,365	447	2,896	2,896	584	6.70	7.37	6.29	5.29	4.96
1500~2999	立正	文	社会	1,175	1,141	269	1,158	1,120	237	1,392	1,353	184	1,325	1,287	138	843	813	134	4.24	4.73	7.35	9.33	6.07
1500~2999	立正	法	法-現代社会	732	699	57	480	458	84	844	819	98	787	763	58	416	395	100	12.26	5.45	8.36	13.16	3.95
3,000人以上	早稲田	社会科学	社会科学	13,931	12,656	1,256	14,458	13,077	1,102	12,417	11,191	959	11,932	10,729	1,008	10,258	9,368	1,160	10.08	11.87	11.67	10.84	8.08
1500~2999	関東学院	社会	現代デザイン	519	503	363	998	979	376	1,235	1,207	347	1,679	1,634	443	1,184	1,153	541	2.60	3.48	3.69	2.13	2.13
1500~2999	関東学院	法	地域創生	268	282	51	286	281	58	566	548	122	735	719	102	551	529	222	5.14	4.84	4.49	7.05	2.38
			志願者合計	45,452			60,855			61,576			56,943			51,051		平均倍率	4.18	5.39	6.33	5.28	3.66

南関東入学定員1000人以上の大学かつ心理学系学科の志願状況

出典：蛍雪時代、ガイドライン

入学定員(大 学全体)	大学名	学部名	学科名	17志願	17受験	17合格	18志願	18受験	18合格	19志願	19受験	19合格	20志願	20受験	20合格	21志願	21受験	21合格	17実質倍率	18実質倍率	19実質倍率	20実質倍率	21実質倍率
3,000人以上	青山学院	教育人間科学	心理(旧:文学部)	1,648	1,571	239	1,765	1,693	223	1,748	1,686	222	1,447	1,377	215	1,217	1,166	237	6.57	7.59	7.59	6.40	4.92
1500~2999	大妻女子	人間関係	人間関係-社会-臨床心理学	313	306	77	311	306	109	411	404	108	329	322	58	241	233	115	3.97	2.81	3.74	5.55	2.03
1500~2999	学習院	文	心理	967	921	181	825	795	154	930	892	180	993	944	156	639	611	113	5.09	5.16	4.96	6.05	5.41
1000~1499	杏林	保健	臨床心理				120	114	105	246	237	204	530	511	188	394	375	182	1.09	1.16	2.72	2.06	2.06
3,000人以上	駒澤	文	心理	1,419	1,397	256	1,779	1,743	223	1,812	1,773	201	1,423	1,388	251	1,405	1,372	271	5.46	7.82	8.82	5.53	5.06
1500~2999	上智	総合人間科学	心理	557	544	50	552	534	46	530	510	45	560	535	64	525	507	40	10.88	11.61	11.33	8.36	12.68
1500~2999	昭和女子	人間社会	心理	1,061	1,037	185	883	857	170	1,178	1,138	134	881	849	149	704	687	141	5.61	5.04	8.49	5.70	4.87
1000~1499	成城	社会イノベーション	心理社会	1,837	1,801	434	2,033	1,980	385	3,127	3,041	429	1,625	1,574	463	1,869	1,825	513	4.15	5.14	7.09	3.40	3.56
3,000人以上	専修	人間科学	心理(旧:文学部)	1,740	1,670	191	1,736	1,670	172	2,043	1,955	187	1,662	1,598	228	1,578	1,515	253	8.74	9.71	10.45	7.01	5.99
1000~1499	大正	心理社会	臨床心理	1,048	1,020	279	1,179	1,141	238	1,441	1,390	197	1,094	1,043	211	1,044	990	292	3.66	4.79	7.06	4.94	3.39
3,000人以上	中央	文	心理学	1,208	1,137	174	809	741	99	755	663	136	730	651	127	677	642	158	6.53	7.48	4.88	5.13	4.06
3,000人以上	帝京	文	心理	696	674	326	898	861	289	1,054	1,006	260	1,323	1,286	372	1,314	1,260	237	2.07	2.98	3.87	3.46	5.32
1500~2999	帝京平成	健康メディカル	臨床心理	218	199	72	262	248	31	180	164	89	345	328	116	288	279	128	2.76	8.00	1.84	2.83	2.18
3,000人以上	東海	文化社会	心理・社会(旧:文学部)	909	841	159	1,207	1,153	122	1,286	1,229	109	1,209	1,143	137	1,036	989	216	5.29	9.45	11.28	8.34	4.58
1500~2999	東京家政	人文	心理カウンセリング	622	611	160	741	692	146	954	929	67	765	740	94	752	705	97	3.82	4.74	13.87	7.87	7.27
1000~1499	東京福祉	心理	心理	359	335	266	481	456	200	765	719	147	442	390	323	334	302	268	1.26	2.28	4.89	1.21	1.13
3,000人以上	東洋	社会	社会心理	2,407	2,407	435	3,003	3,003	405	2,991	2,991												

桜美林大学 教育探究科学群(仮称)
設置構想についての高校生アンケート調査 報告書

令和 3 年 12 月 10 日

株式会社 高等教育総合研究所

目次

1. 調査の概要	1
2. 全質問項目の集計結果	3
3. 集計結果のポイント	9

添付資料

「桜美林大学 教育探究科学群（仮称）」設置についての高校生アンケート 概要／リーフレット／アンケート用紙／ウェブアンケート画面	15
--	----

1. 調査の概要

目的	本調査は、桜美林大学が令和5年（2023）年4月設置に向けて構想中の「桜美林大学 教育探究科学群（仮称）」の学生確保の見通しを大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
調査対象	令和5年度の大学入試を受験する可能性が最も高い現高校2年生をアンケートの対象とした。調査対象として、以下のいずれかに該当する高校に調査を依頼し、132校から実施可能な回答をいただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ・本学が学生確保の基盤とする高校（関東を中心とした東日本地域） ・過去3年間（平成30年～令和2年）の平均受験者数が5人以上の高校
調査方法	アンケート実施の了承が得られた高校にアンケート用紙と「桜美林大学 教育探究科学群（仮称）」概要資料、「桜美林大学 教育探究科学群（仮称）」リーフレットを送付した。各校の教職員が調査対象者にアンケートを配布し、その場で回答いただいた。 なお、紙媒体でのアンケート調査と同様の設問・概要資料・リーフレットを用いて Web でのアンケート実施環境を用意し、Web アンケートを希望した高校にアンケートフォームを送付した。各校の教職員から調査対象者にアンケートフォームへ誘導し、回答者はパソコンもしくはタブレット、スマートフォン等を使用して回答いただいた。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の基本情報（性別、居住地、高校卒業後の希望進路、関心のある学問分野） ・桜美林大学教育探究科学群（仮称）への受験・入学意欲 以上、全11問ですべて選択肢式である。
調査時期	令和3年9月～12月
有効回答件数	20,307件（回収件数：20,677件。うち、問2「居住地」を無回答、あるいは回答者の高校所在地を踏まえて通学圏ではない居住地を回答した370件を無効回答とした。）

なお、アンケート実施期間がコロナ禍であったにもかかわらず、本学が過去実施した同種のアンケート（平成26年「グローバル・コミュニケーション学群」（有効回答件数：18,510件）、平成29年「健康福祉学群」（同16,490件）、平成30年に実施した「航空・マネジメント学群」（同16,375件））と比べて、最もアンケート回答数が多かった。

実施高校の内訳は以下の通りである。

都道府県	区分			総計
	公立	国立	私立	
北海道	1		1	2
青森県			1	1
秋田県	1			1
福島県			1	1
茨城県	1		2	3
栃木県	1		2	3
群馬県	1		3	4
埼玉県	2		8	10
千葉県			6	6
東京都	17	1	29	47
神奈川県	19		18	37
新潟県	2		1	3
山梨県	1			1
長野県	6			6
静岡県	2		2	4
岡山県			1	1
熊本県			2	2
総計	54	1	77	132

2. 全質問項目の集計結果

※構成比 (%) はいずれも、小数第 2 位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100%とは一致しない。

3～8 ページはアンケートで回答を得た 20,307 件の有効回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問 1 性別をお答えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

※各構成比＝回答数÷20,307

選択項目		回答数	構成比
1	男性	9,325	45.9%
2	女性	9,916	48.8%
	無回答	1,066	5.2%
合計		20,307	100.0%

問 2 あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

※各構成比＝回答数÷20,307

選択肢	回答数	構成比	選択肢	回答数	構成比	選択肢	回答数	構成比
北海道	119	0.6%	石川県	0	0.0%	岡山県	58	0.3%
青森県	144	0.7%	福井県	0	0.0%	広島県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%	山梨県	81	0.4%	山口県	0	0.0%
宮城県	0	0.0%	長野県	591	2.9%	徳島県	0	0.0%
秋田県	217	1.1%	岐阜県	0	0.0%	香川県	0	0.0%
山形県	0	0.0%	静岡県	490	2.4%	愛媛県	0	0.0%
福島県	281	1.4%	愛知県	0	0.0%	高知県	0	0.0%
茨城県	286	1.4%	三重県	0	0.0%	福岡県	0	0.0%
栃木県	90	0.4%	滋賀県	0	0.0%	佐賀県	0	0.0%
群馬県	707	3.5%	京都府	0	0.0%	長崎県	0	0.0%
埼玉県	1,997	9.8%	大阪府	0	0.0%	熊本県	640	3.2%
千葉県	1,219	6.0%	兵庫県	0	0.0%	大分県	0	0.0%
東京都	5,888	29.0%	奈良県	0	0.0%	宮崎県	0	0.0%
神奈川県	7,240	35.7%	和歌山県	0	0.0%	鹿児島県	0	0.0%
新潟県	259	1.3%	鳥取県	0	0.0%	沖縄県	0	0.0%
富山県	0	0.0%	島根県	0	0.0%	合計	20,307	100.0%

※回収分より、問 2 「居住地」を無回答、あるいは回答者の高校所在地を踏まえて通学圏ではない居住地の回答 370 件を無効回答とした。

問3 高校卒業後の希望進路についてお教えてください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 20,307 件の延数 ※各回答率＝回答数÷20,307

選択項目		回答数	回答率
1	大学	16,505	81.3%
2	短期大学	1,495	7.4%
3	専門学校	4,798	23.6%
4	就職	1,307	6.4%
5	その他	597	2.9%
	無回答	46	0.2%

問4 卒業後の進路先はどの地方を希望していますか（あてはまるものに3つまでマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 20,307 件の延数 ※各回答率＝回答数÷20,307

選択項目		回答数	回答率
1	北海道	387	1.9%
2	東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）	925	4.6%
3	南関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）	17,246	84.9%
4	北関東・甲信越（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）	2,754	13.6%
5	北陸（新潟、富山、石川、福井）	619	3.0%
6	東海（岐阜、静岡、愛知、三重）	839	4.1%
7	近畿（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）	1,126	5.5%
8	中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）	145	0.7%
9	四国（徳島、香川、愛媛、高知）	74	0.4%
10	九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）	736	3.6%
11	海外	657	3.2%
12	まだ決まっていない／あてはまるものはない	1,390	6.8%
	無回答	98	0.5%

問5 高校の授業で、好きな教科をお教えてください(あてはまるものすべてにマークをしてください)。

※複数回答項目のため、回答数は 20,307 件の延数 ※各回答率=回答数÷20,307

	選択項目	回答数	回答率
1	総合的な学習の時間 (探究学習)	1,263	6.2%
2	国語	3,497	17.2%
3	外国語 (英語)	3,567	17.6%
4	外国語 (英語以外の言語)	708	3.5%
5	政治・経済	806	4.0%
6	倫理	575	2.8%
7	現代社会	1,519	7.5%
8	地理	898	4.4%
9	日本史	3,414	16.8%
10	世界史	3,276	16.1%
11	数学	4,175	20.6%
12	物理	1,047	5.2%
13	化学	1,489	7.3%
14	生物	2,229	11.0%
15	地学	597	2.9%
16	保健・体育	6,624	32.6%
17	芸術 (音楽・美術・工芸・書道)	4,719	23.2%
18	家庭	1,902	9.4%
19	情報	1,407	6.9%
20	その他	259	1.3%
21	あてはまるものはない	1,875	9.2%
	無回答	111	0.5%

問6 「総合的な学習の時間」や探究学習のように、自ら課題を設定して調査をしたり、解決していく学びについて伺います。このような形態の学びに興味・関心はありますか（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

※各構成比＝回答数÷20,307

選択項目		回答数	構成比
1	とても興味がある	1,534	7.6%
2	興味がある	8,001	39.4%
3	あまり興味がない	7,047	34.7%
4	興味がない	3,575	17.6%
	無回答	150	0.7%
合計		20,307	100.0%

問7 桜美林大学が主催する高校生のためのプログラム『ディスカバ!』を知っていますか（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

※各構成比＝回答数÷20,307

選択項目		回答数	構成比
1	知っていて、参加したことがある	225	1.1%
2	知っていて、興味がある	314	1.5%
3	知っているが、興味はない	403	2.0%
4	知らない	19,256	94.8%
	無回答	109	0.5%
合計		20,307	100.0%

問8 あなたが興味・関心を持った内容についてお教えてください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は20,307件の延数 ※各回答率＝回答数÷20,307

選択項目		回答数	回答率
1	人間の成長や豊かな社会の在り方を研究対象としている教育学を学べること	6,101	30.0%
2	データを適切に収集し、分析、解釈するためのデータリテラシーを身につけられること	4,224	20.8%
3	教室内での講義だけでなく、教室外で実践を繰り返す体験型学習が用意されていること	7,072	34.8%
4	問題や課題を自ら設定して解決していく知識や技能を修得できること	3,795	18.7%
5	海外での学びを、発信を中心とした英語プログラム「Speak Out Program」によりサポートされること	3,969	19.5%
6	リサーチスキルや分析研究、演習を受けることで、リーダーシップ力を身につけられること	2,981	14.7%
	無回答	1,265	6.2%

以降は、「桜美林大学 教育探究科学群（仮称）」概要資料を見た上での回答を求めた。

問9 あなたは、本学の「教育探究科学群（仮称）」を受験したいと思いますか（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

※各構成比＝回答数÷20,307

選択項目		回答数	構成比
1	受験したい	715	3.5%
2	受験しない	19,342	95.2%
	無回答	250	1.2%
合計		20,307	100.0%

問 10 は問 9 にて「受験したい」と回答した 715 件が回答対象である。

問 10 「教育探究科学群（仮称）」に合格した場合、入学したいと思いますか（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

※各構成比＝回答数÷715

選択項目		回答数	構成比
1	入学したい	266	37.2%
2	併願校の結果によっては、入学したい	438	61.3%
	無回答	11	1.5%
合計		715	100.0%

問 11 は問 9 にて「受験しない」と回答した 19,342 件が回答対象である。

問 11 「教育探究科学群（仮称）」を受験しないと回答した理由をお教えてください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 19,342 件の延数 ※各回答率＝回答数÷19,342

選択項目		回答数	回答率
1	まだ、志望校を決めていないから	6,250	32.3%
2	詳細を知った上で検討したいから	2,444	12.6%
3	興味・関心のある分野ではないから	8,597	44.4%
4	すでに他大学への進学を希望しているから	5,685	29.4%
5	卒業後の進路として大学を考えていないから	1,445	7.5%
6	通学が不便そうだから	1,191	6.2%
7	学納金が高いから	1,004	5.2%
8	首都圏に進学する予定ではないから	522	2.7%
9	その他	1,019	5.3%
	無回答	119	0.6%

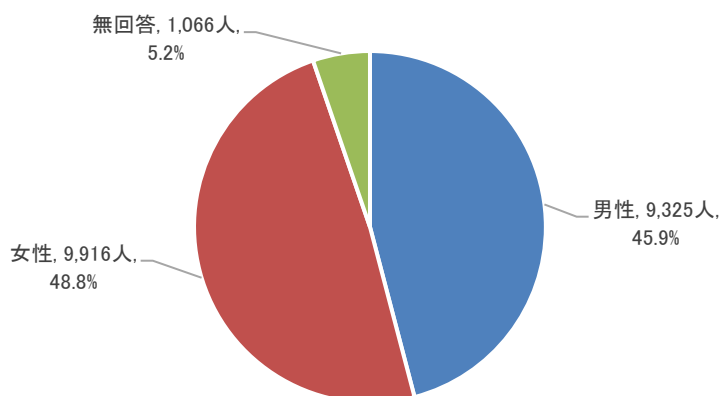
3. 集計結果のポイント

※「構成比」 (%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100% と一致しない

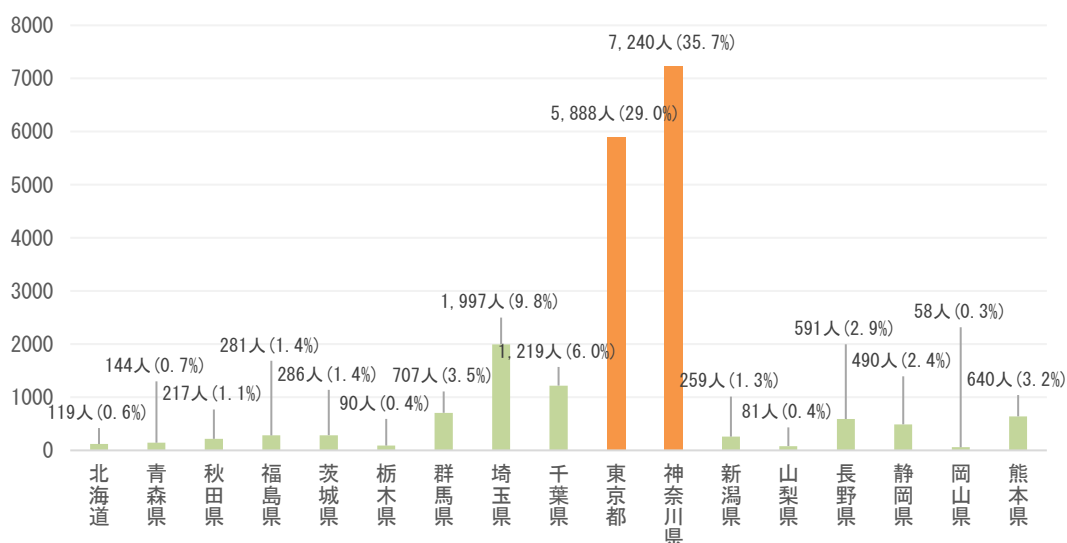
回答者は、神奈川県と東京都に 6 割以上居住しており、男女比は約 5 割ずつ

問 1 と問 2 は回答者の属性を問う設問である。アンケート有効回答者 20,307 人のうち、「男性」が 9,325 人 (45.9%)、「女性」が 9,916 人 (48.8%)、無回答は 1,066 人 (5.2%) であった。また、本報告書の「1. 調査の概要」に記載している実施高校の内訳で示した通り、本学群がキャンパスを置く神奈川県と東京都にある高校を中心にアンケート調査にご協力いただき、アンケート有効回答者は、神奈川県に 7,240 人 (35.7%)、東京都に 5,888 人 (29.0%)、その他の県に 7,179 人 (35.4%) に居住すると回答した。

回答者の性別(「問1」)



回答者の居住地(「問2」)

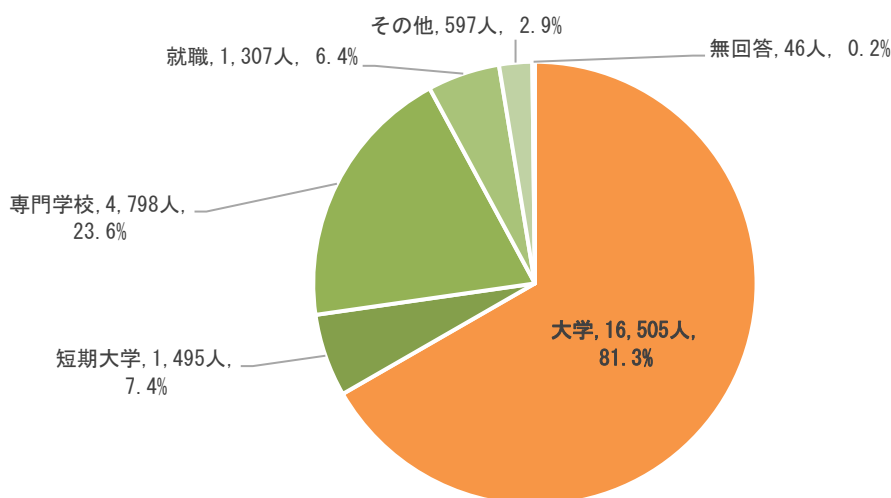


高校卒業後に希望する進路について、回答者の8割以上が「大学」、希望する地方を「南関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）」と回答

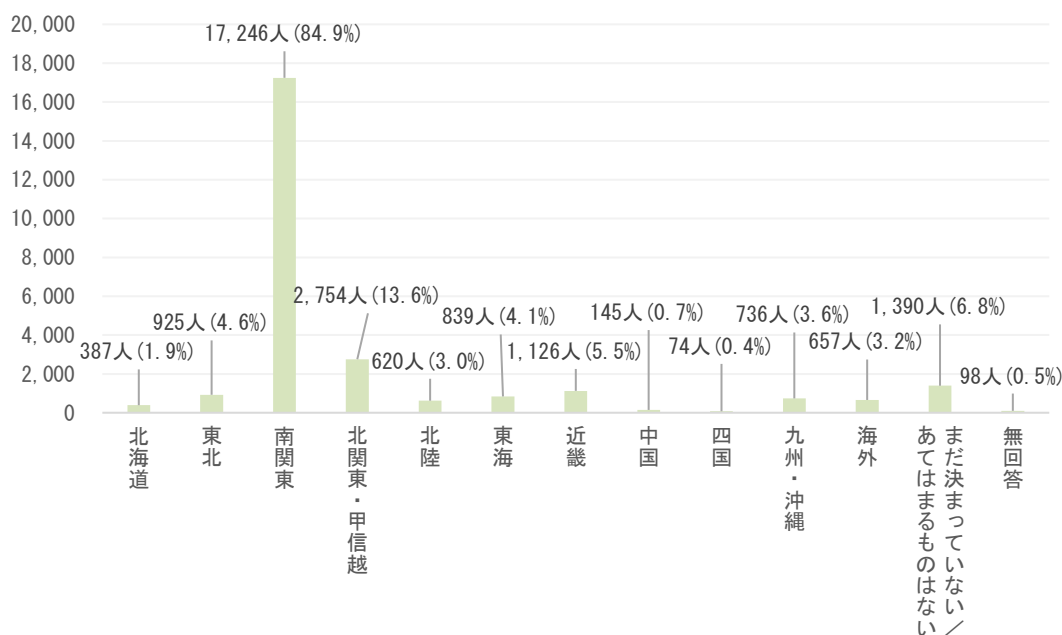
高校卒業後の希望進路について、アンケート有効回答者の20,307人のうち、81.3%にあたる16,505人が「大学」、次いで7.4%にあたる1,495人が「短期大学」と回答した。

また、卒業後の希望進路先の地方について、84.9%にあたる17,246人が、本学群が所在する「南関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）」と回答した。（いずれも複数回答の結果）

高校卒業後の希望進路（「問3」）



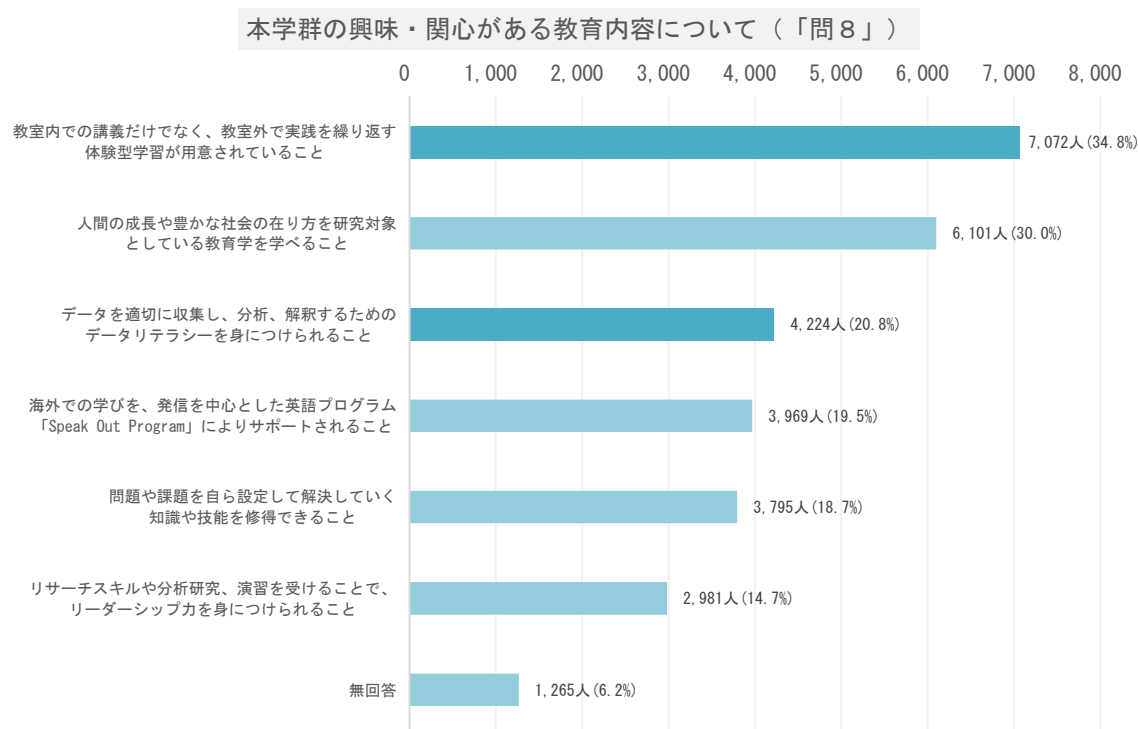
高校卒業後の希望進路（地方）について（「問4」）



本学群の教育内容それぞれに興味・関心を示す

本学群の特色について興味・関心を持った内容について尋ねた問8では、アンケート有効回答者 20,307 人のうち、19,042 人がいずれかの回答を選択した。34.8%にあたる 7,072 人が「教室内での講義だけでなく、教室外で実践を繰り返す体験型学習が用意されていること」、20.8%にあたる 4,224 人が「海外での学びを、発信を中心とした英語プログラム「Speak Out Program」によりサポートされること」の2点を選択し、本学群の特色の一つであるフィールドワークへの興味・関心を示した。

また、「データを適切に収集し、分析、解釈するためのデータリテラシーを身につけられること」を選択した者は 22.2%にあたる 4,224 人であり、データリテラシー習得への期待も 2 割を超える回答があった。（複数回答の結果）

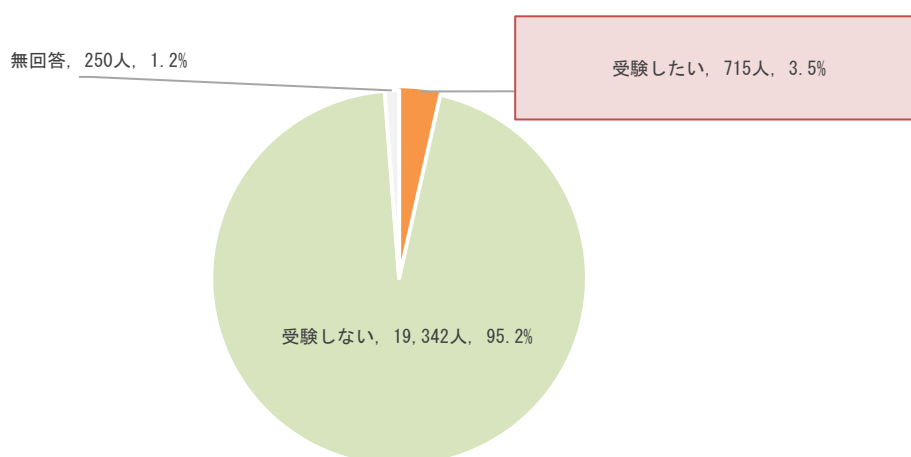


入学定員に対し、2倍近くの266人が本学群に強い入学意欲を示す

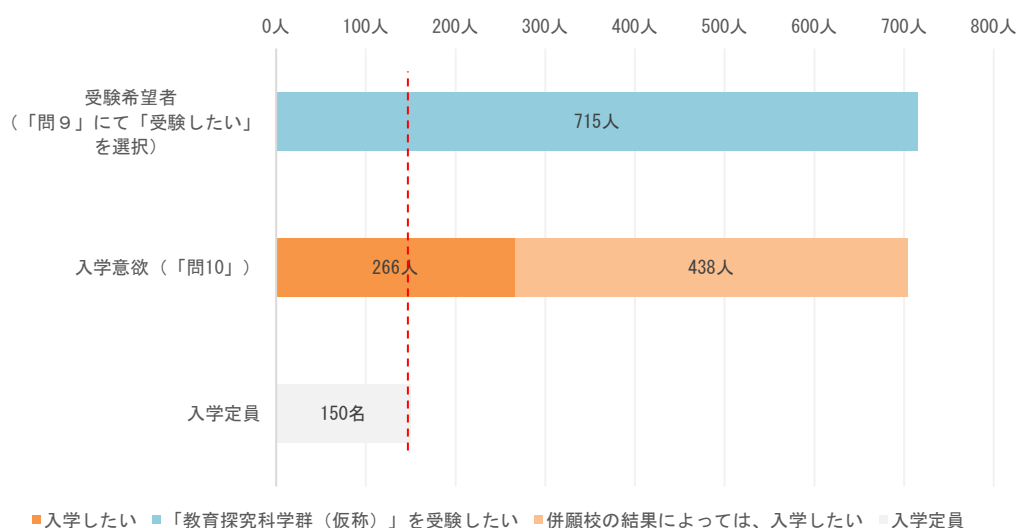
アンケート有効回答者20,307人のうち、3.5%にあたる715人が本学群を「受験したい」と回答した。この人数は、予定する入学定員150名の4.77倍である。

なお、本学群を「受験したい」と回答した715人に入学意欲を尋ねたところ、結果は本学群を受験し「合格した場合、入学したい」と回答したのは266人、「併願校の結果によっては、入学したい」と回答したのは438人である。以上を踏まえると、桜美林大学「教育探究科学群（仮称）」の予定する入学定員150名の4.77倍の受験希望者が見込まれ、**入学定員の1.77倍の266人が本学群に入学するという強い入学意欲を示している。**

本学群への受験意欲（「問9」）



本学群の入学意欲について（「問10」）



本学群に入学意欲を示し、問3の希望進路先で「大学」を希望した者は、「合格した場合、入学したい」と回答した者が230人で本学群が予定する入学定員の約1.5倍、また、「合格した場合、併願校の結果によっては、入学したい」と回答した者は395人で入学定員の約2.6倍であった。

クロス 問3「進学希望先(複数回答)」×問9「受験したい」×問10「入学意欲」

		入学したい	併願校の結果によっては、入学したい
希望 進路 先	大学	230	395
	短期大学	24	35
	専門学校	43	76
	就職	20	22
	その他	10	9

以上のことから、桜美林大学が設置構想中の「教育探究科学群（仮称）」は、定員充足において問題はないと判断できる。

添付資料

桜美林大学「教育探究科学群（仮称）」設置構想についての高校生アンケート調査
概要／リーフレット／調査用紙／ウェブアンケート画面

探究という手法を使って教育を科学する

桜美林大学 教育探究科学群（仮称）

令和5（2023）年4月開設に向け、構想中

※記載されている内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります

学 群 の 概 要	開設時期	令和5（2023）年4月
	開設場所	プラネット湘野辺キャンパス （神奈川県相模原市湘野辺4-16-1）
	入学定員	150名
	修業年限	4年
	取得学位	学士（教育学）

交通アクセス

本学群は、**プラネット湘野辺キャンパス**で学びます。
アクセスは以下の通りです。
*JR横浜線「湘野辺」駅より徒歩1分

養成する人材像

桜美林大学の教育探究科学群（仮称）では、環境の変化が早く正解のない時代と言われる現代社会を「学び」でよりよい社会や生き方を研究してきた教育学の専門性と学術的な探究手法を応用して、個人・集団・社会の変化に対し、リーダーシップを発揮できる人材を養成します。

◆教育探究科学群（仮称） 4つのコンセプト

1. 教育学の学び
「教育学」はよりよい社会、生き方を創造していくのに大切な「教育」をテーマに哲学・思想、心理学、社会学などの学術からなる学問です。社会の基盤として機能してきた教育について学びながら、産業革命以来といわれる現在の社会変革に社会・個人が対応するための「学びの在り方」について考えます。

2. データリテラシー
ITの発展に伴い、さまざまなものが計測可能になり、かつての勤や経験がデータ化され扱うことができるようになるなど、重要性が高まっています。データ社会に必須である、データを適切に収集し、分析、解釈するためのデータリテラシーを身につけます。

3. フィールドワーク
教室内での講義だけでなく、教室外、さらには国内外のあらゆる場所で自らが学びを作り、実践を繰り返していく体験型学習の機会が多くあります。海外での学びを、発信を中心に新しくデザインされた英語プログラム「Speak Out Program」がサポートします。

4. 「教えながら、学ぶ」探究学
哲学、心理学、社会学などの学問は、高度なリサーチスキルや論証法、分析研究が基盤にあります。こうした手法を体系的に学ぶとともに、徹底した演習で主体的に取り組む態度、リーダーシップを身につけます。

卒業後の進路

桜美林大学 教育探究科学群（仮称）を卒業した学生は、以下のような進路が想定されます。

経営・人材コンサルティング業界、マーケティングリサーチ業界、教育業界をはじめ、本学群で身につく経験に裏打ちされた主体性とデータリテラシースキルは幅広い進路で役立ちます。また、大学院進学で更に高度なスキルや視座を得ることも推奨しています。

初年度学納金（他大学含む）	大学名 学部 学科名	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	その他	初年度納入金
	桜美林大学 教育探究科学群 教育探究学科類（仮称）	100,000	1,110,000	50,000	—	300,000	1,560,000
	関東学院大学 人間共生学部 共生デザイン学科	290,000	890,000	—	67,000	337,660	1,584,660
	大妻女子大学 人間関係学部 人間関係学科	250,000	950,000	205,000	—	39,350	1,444,350

※桜美林大学 教育探究科学群（仮称）の学費は、2023年度予定のものです。
※他大学の各学部・学科の学費は各大学がホームページに掲載している情報に基づきます（2021年8月時点）
※その他、諸会費が必要となる場合があります。

新学群

はじまる。

未知を楽しみ、冒険しよう。

2023年4月、世界中がキャンパスに



1期生募集

OPEN IN APRIL 2023

教育探究科学群(仮称)設置構想準備中

予定であり、変更になる可能性があります。

答えのないこの時代。自分なりの答えを桜美林で探究する一二期生募集

探究の桜美林

桜美林大学
J. F. Oberlin University

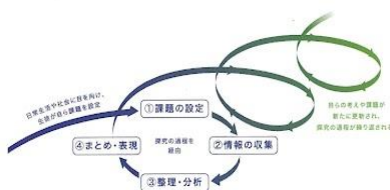
正解のない時代だからこそ、 新たな挑戦や出会いに ワクワクしよう。

私たちが生きる現代は、未来が不確実な時代だと言われて
います。人口減少や産業構造の変化、地方創生や環境問題、
SDGsやグローバルな協働、感染症への対策、様々な問題に
直面しています。こんな時代だからこそ、その時々最適解
を仲間とともに探せる人が社会では求められます。

桜美林大学は2023年4月、 「教育探究科学群(仮称)」を新設します。

「探究」とは？

正解のない時代に有効な学び方こそ「探究」です。
2022年度から実施される新しい学習指導要領に沿っ
て、高等学校では「総合的な探究の時間」など、「探究」
のついた多数の科目が新設されます。この学び方にワ
クワクしているみなさんには、大学で成長していく資
質が備わっているとと言えるでしょう。



文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」(平成30年7月)を
参考に作成

新学群の特徴

5つの特徴で「探究」を加速させ、自己変
革力を養うため、「教育学」の学術的なメ
ソッドをベースに、より実践的なカリキュ
ラムを掛け合わせていく「教育探究科学
群(仮称)」。

③ 学術で掘り下げるリサーチメソッド

高度なリサーチ・スキルや論証法、分析研
究などのリサーチメソッドを学術的・体系
的に身につけます。

① 好奇心から始まるゼミ

ひとりひとりの好奇心を刺激し、自己変
革力を引き出す、ゼミ型のカリキュラムが
入学後すぐに始まります。

④ Breakthroughするクォーター制

クォーター制(年4期制)で柔軟に学修計
画を変化させて、成長サイクルを積み重
ねよう。

② 未知を探究するフィールドワーク

沖縄やバンクーバーなど、国内外を問わ
ずフィールドワークを行います。まさに世
界中がキャンパスとなります。

⑤ 「教えて、学ぶ」ピアラーニング

あらゆる科目が学生同士で「教えて、学
ぶ」スタイルでデザインされています。

設置計画

開設時期 **2023年4月** 入学定員 **150人**

新設学群において取得可能な資格 **社会調査士、社会教育士**

校舎 **プラネット淵野辺キャンパス(PFC)**
〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺4-16-1 ※JR横浜線「淵野辺」駅北口隣接

※予定であり変更になる可能性があります



新学群についての詳しい情報はWEBサイトから ※9月中旬公開予定

予定しているコンテンツ

新学群の最新情報 / 新学群関連のイベント情報 / キーパーソ
ンへのインタビュー(教員、学長、学生など) / 高校教員との探
究の座談会レポートなど

桜美林大学のLINEで最新情報を配信!

WEBサイトの公開や、イベント情報など、順次配
信予定! 右記のQRコードから、ぜひ友達登録し
てください。





桜美林大学 教育探究科学群（仮称）

2023年4月開設に向け、設置構想中



設置構想についての高校生アンケート調査

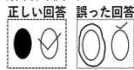
対象：高校2年生のみなさん

桜美林大学は2023年4月、「教育探究科学群（仮称）」（定員：150名）の設置を構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、2023年に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、学群構想の参考にさせていただきたいと考えています。なお、本アンケートは匿名回答であり、個人が特定されることはありません。また、集計結果は、教育探究科学群（仮称）の設置構想に係る統計資料、文部科学省への提出書類としてのみ活用いたします。つきましては、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※本アンケートは桜美林大学より委託された第三者機関の株式会社高等教育総合研究所が実施しています。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

- ・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用してください。
- ・訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
- ・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。



上の正しい回答のように丁寧に塗りつぶしてください。誤った回答のような場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

問1 性別をお答えください（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

- 男性 女性

問2 あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

- | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 福島県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 神奈川県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 長野県 | <input type="radio"/> 岐阜県 |
| <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 兵庫県 |
| <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 岡山県 | <input type="radio"/> 広島県 | <input type="radio"/> 山口県 |
| <input type="radio"/> 徳島県 | <input type="radio"/> 香川県 | <input type="radio"/> 愛媛県 | <input type="radio"/> 高知県 | <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | <input type="radio"/> 長崎県 |
| <input type="radio"/> 熊本県 | <input type="radio"/> 大分県 | <input type="radio"/> 宮崎県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 | <input type="radio"/> 沖縄県 | | |

問3 高校卒業後の希望進路についてお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- 大学
- 短期大学
- 専門学校
- 就職
- その他





問4 卒業後の進路先はどの地方を希望していますか（あてはまるものに3つまでマークをしてください）。

- 北海道
- 東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）
- 南関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）
- 北関東・甲信越（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）
- 北陸（新潟、富山、石川、福井）
- 東海（岐阜、静岡、愛知、三重）
- 近畿（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）
- 中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）
- 四国（徳島、香川、愛媛、高知）
- 九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）
- 海外
- まだ決まっていない／あてはまるものはない

問5 高校の授業で、好きな教科をお教えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- | | | |
|---------------------------------------|---|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 総合的な学習の時間（探究学習） | <input type="radio"/> 国語 | <input type="radio"/> 外国語（英語） |
| <input type="radio"/> 外国語（英語以外の言語） | <input type="radio"/> 政治・経済 | <input type="radio"/> 倫理 |
| <input type="radio"/> 現代社会 | <input type="radio"/> 地理 | <input type="radio"/> 日本史 |
| <input type="radio"/> 世界史 | <input type="radio"/> 数学 | <input type="radio"/> 物理 |
| <input type="radio"/> 化学 | <input type="radio"/> 生物 | <input type="radio"/> 地学 |
| <input type="radio"/> 保健・体育 | <input type="radio"/> 芸術（音楽・美術・工芸・書道） | <input type="radio"/> 家庭 |
| <input type="radio"/> 情報 | <input type="radio"/> その他 <input style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px;" type="text"/> | <input type="radio"/> あてはまるものはない |

問6 「総合的な学習の時間」や探究学習のように、自ら課題を設定して調査をしたり、解決していく学びについて伺います。このような形態の学びに興味・関心はありますか（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> とても興味がある | <input type="radio"/> 興味がある |
| <input type="radio"/> あまり興味がない | <input type="radio"/> 興味がない |

問7 桜美林大学が主催する高校生のためのプログラム『ディスカバ!』を知っていますか（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 知っていて、参加したことがある | <input type="radio"/> 知っていて、興味がある |
| <input type="radio"/> 知っているが、興味はない | <input type="radio"/> 知らない |





問8以降は、「桜美林大学の教育探究科学群の概要」を読んでお答えください。

問8 あなたが興味・関心を持った内容についてお教えてください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- 人間の成長や豊かな社会の在り方を研究対象としている教育学を学べること
- データを適切に収集し、分析、解釈するためのデータリテラシーを身につけられること
- 教室内での講義だけでなく、教室外で実践を繰り返す体験型学習が用意されていること
- 問題や課題を自ら設定して解決していく知識や技能を修得できること
- 海外での学びを、発信を中心とした英語プログラム「Speak Out Program」によりサポートされること
- リサーチスキルや分析研究、演習を受けることで、リーダーシップ力を身につけられること

問9 あなたは、本学の「教育探究科学群（仮称）」を受験したいと思いますか（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

- 受験したい ⇨問10へお進みください
- 受験しない ⇨問11へお進みください

問10は、問9で「受験したい」と回答した方のみお答えください。

問10 「教育探究科学群（仮称）」に合格した場合、入学したいと思いますか（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

- 入学したい
- 併願校の結果によっては、入学したい

問11は、問9で「受験しない」と回答した方のみお答えください。

問11 「教育探究科学群（仮称）」を受験しないと回答した理由をお教えてください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- まだ、志望校を決めていないから
- 興味・関心のある分野ではないから
- 卒業後の進路として大学を考えていないから
- 学納金が高いから
- その他
- 詳細を知った上で検討したいから
- すでに他大学への進学を希望しているから
- 通学が不便そうだから
- 首都圏に進学する予定ではないから

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



桜美林大学教育探究科学群（仮称）設置構想についての高校生アンケート

桜美林大学は2023年4月、「教育探究科学群（仮称）」（定員：150名）の設置を構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、2023年に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、学群構想の参考にさせていただきたいと考えています。なお、本アンケートは匿名回答であり、個人が特定されることはございません。また、集計結果は、教育探究科学群（仮称）の設置構想に係る統計資料、文部科学省への提出書類としてのみ活用いたします。つきましては、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。※本アンケートは桜美林大学より委託された第三者機関の株式会社高等教育総合研究所が実施しています。



（共有なし） [アカウントを切り替える](#)



*必須

性別をお答えください。*

男性

女性

あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。*

選択



高校卒業後の希望進路についてお教えてください。（複数選択）*

- 大学
- 短期大学
- 専門学校
- 就職
- その他

卒業後の進路先はどの地方を希望していますか。（あてはまるもの3つまで選択）*

- 北海道
- 東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）
- 南関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）
- 北関東・甲信越（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）
- 北陸（新潟、富山、石川、福井）
- 東海（岐阜、静岡、愛知、三重）
- 近畿（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）
- 中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）
- 四国（徳島、香川、愛媛、高知）
- 九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）
- 海外
- まだ決まっていない／あてはまるものはない



高校の授業で、好きな教科をお教えてください。（複数選択）*

総合的な学習の時間（探究学習）

国語

外国語（英語）

外国語（英語以外の言語）

政治・経済

倫理

現代社会

地理

日本史

世界史

数学

物理

化学

生物

地学

保健・体育

芸術（音楽・美術・工芸・書道）

家庭

情報

あてはまるものはない

その他: _____



「総合的な学習の時間」や探究学習のように、自ら課題を設定して調査をしたり、解決していく学びについて伺います。このような形態の学びに興味・関心はありますか。*

- とても興味がある
- 興味がある
- あまり興味がない
- 興味がない

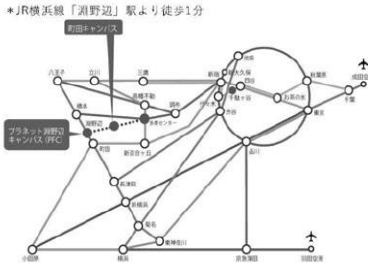
桜美林大学が主催する高校生のためのプログラム『ディスカバ!』を知っていますか。*

- 知っていて、参加したことがある
- 知っていて、興味がある
- 知っているが、興味はない
- しらない



以降の質問は「桜美林大学 教育探究科学群（仮称）の概要」を読んでお答えください。

探究という手法を使って教育を科学する
桜美林大学 教育探究科学群（仮称）
 令和5（2023）年4月開設に向け、構想中
 ※記載されている内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります

学 群 の 概 要	開設時期	令和5（2023）年4月	交 通 ア ク セ ス 図	本学群は、 プラネット洲野辺キャンパス で学びます。 アクセスは以下の通りです。 *JR横浜線「洲野辺」駅より徒歩1分 			
	開設場所	プラネット洲野辺キャンパス （神奈川県相模原市洲野辺4-16-1）					
	入学定員	150名					
	修業年限	4年					
取得学位	学士（教育学）						
養成する人材像	桜美林大学の教育探究科学群（仮称）では、環境の変化が早く正解のない時代と言われる現代社会を「学び」でよりよい社会や生き方を研究してきた教育学の専門性と学術的な探究手法を応用して、個人・集団・社会の変化に対し、リーダーシップを発揮できる人材を養成します。						
学 群 の 特 色	◆教育探究科学群（仮称） 4つのコンセプト						
	1. 教育学の学び 「教育学」はよりよい社会、生き方を創造していくのに大切な「教育」をテーマに哲学・思想、心理学、社会学などの学術からなる学問です。社会の基盤として機能してきた教育について学びながら、産業革命以来といわれる現在の社会変革に社会・個人が対応するための「学びの在り方」について考えます。						
	2. データリテラシー ITの発展に伴い、さまざまなものが計測可能になり、かつての勘や経験がデータ化され扱うことができるようになるなど、重要性が高まっています。データ社会に必須である、データを適切に収集し、分析、解釈するためのデータリテラシーを身につけます。						
	3. フィールドワーク 教室内での講義だけでなく、教室外、さらには国内外のあらゆる場所で自らが学びを作り、実践を繰り返していく体験型学習の機会が多くあります。海外での学びを、発信を中心に新しくデザインされた英語プログラム「Speak Out Program」がサポートします。						
4. 「教えながら、学ぶ」探究学 哲学、心理学、社会学などの学問は、高度なリサーチスキルや論証法、分析研究が基盤にあります。こうした手法を体系的に学ぶとともに、徹底した演習で主体的に取り組む態度、リーダーシップを身につけます。							
卒業後の進路	桜美林大学 教育探究科学群（仮称）を卒業した学生は、以下のような進路が想定されます。 経営・人材コンサルティング業界、マーケティングリサーチ業界、教育業界をはじめ、本学群で身につく経験に裏打ちされた主体性とデータリテラシースキルは幅広い進路で役立ちます。また、大学院進学で更に高度なスキルや視座を得ることも推奨しています。						
初 年 度 学 納 金 （ 他 大 学 含 む ）	大学名 学部 学科名	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	その他	初年度 納入金
	桜美林大学 教育探究科学群 教育探究学科類（仮称）	100,000	1,110,000	50,000	—	300,000	1,560,000
	関東学院大学 人間共生学部 共生デザイン学科	290,000	890,000	—	67,000	337,650	1,584,660
	大妻女子大学 人間関係学部 人間関係学科	250,000	950,000	205,000	—	39,350	1,444,350
<small>※桜美林大学 教育探究科学群（仮称）の学費は、2023年度予定のものです。 ※他大学の各学部・学科の学費は各大学がホームページに掲載している情報に基づきます（2021年8月時点） ※その他、諸費が必要となる場合があります。</small>							

「桜美林大学 教育探究科学群（仮称）リーフレット」表面

新学群はじまる。

未知を楽しみ、冒険しよう。
2023年4月、世界中がキャンパスに

1期生募集

OPEN IN APRIL 2023
教育探究科学群（仮称）設置構想準備中

予定あり。変更になる可能性があります。
答えのないこの時代。自分なりの答えを桜美林で探究する1期生募集

探究  桜美林 |  桜美林大学
J. F. Oberlin University



正解のない時代だからこそ、 新たな挑戦や出会いに ワクワクしよう。

私たちが生きる現代は、未来が不確実な時代だと言われて
います。人口減少や産業構造の変化、地方創生や環境問題、
SDGsやグローバルな協働、感染症への対策、様々な問題に
直面しています。こんな時代だからこそ、その時々々の最適解
を仲間とともに探せる人が社会では求められます。

桜美林大学は2023年4月、
「教育探究科学群（仮称）」を新設します。

「探究」とは？

正解のない時代に有効な学び方こそ「探究」です。
2022年度から実施される新しい学習指導要領に沿っ
て、高等学校では「総合的な探究の時間」など、「探究」
のついた多数の科目が新設されます。この学び方にワ
クワクしているみなさんには、大学で成長していく資
質が備わっていると考えるでしょう。



文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」（平成30年7月）
参考作成

新学群の特徴

5つの特徴で「探究」を加速させ、自己変
革力を養うため、「教育学」の学術的なメ
ソッドをベースに、より実践的なカリキュ
ラムをかけ合わせていく「教育探究科学
群（仮称）」。

③ 学術で掘り下げるリサーチメソッド
高度なリサーチスキルや論証法、分析研
究などのリサーチメソッドを学術的・体系
的に身につけます。

① 好奇心から始まるゼミ
ひとりひとりの好奇心を刺激し、自己変
革力を引き出す、ゼミ型のカリキュラムが
入学後すぐに始まります。

④ Breakthroughするクォーター制
クォーター制（年4期制）で柔軟に学修計
画を変化させて、成長サイクルを積み重
ねよう。

② 未知を探究するフィールドワーク
沖縄やバンクーバーなど、国内外を問わ
ずフィールドワークを行います。まさに世
界中がキャンパスとなります。

⑤ 「教えて、学ぶ」ピアラーニング
あらゆる科目が学生同士で「教えて、学
ぶ」スタイルでデザインされています。

設置計画

開設時期	2023年4月	入学定員	150人
新設学群において取得可能な資格	社会調査士、社会教育士		
校舎	フラネット酒野辺キャンパス(PFC) 〒252-0206 神奈川県相模原市中央区酒野辺4-16-1 ※JR横須線「酒野辺」駅北口隣接		

※予定であり変更になる可能性があります



新学群についての詳しい情報はWEBサイトから ※2月中旬公開予定

予定しているコンテンツ

新学群の最新情報 / 新学群関連のイベント情報 / キーパーソンへのインタビュー（教員、学長、学生など） / 高校教員との探究の座談会レポートなど

桜美林大学のLINEで最新情報を配信！

WEBサイトの公開や、イベント情報など、順次配信予定！右記のQRコードから、ぜひ友達登録してください。



あなたが興味・関心を持った内容についてお答えください。（複数回答）*

- 人間の成長や豊かな社会の在り方を研究対象としている教育学を学べること
- データを適切に収集し、分析、解釈するためのデータリテラシーを身につけられること
- 教室内での講義だけでなく、教室外で実践を繰り返す体験型学習が用意されていること
- 問題や課題を自ら設定して解決していく知識や技能を修得できること
- 海外での学びを、発信を中心とした英語プログラム「Speak Out Program」によりサポートされること
- リサーチスキルや分析研究、演習を受けることで、リーダーシップ力を身につけられること

あなたは本学の「教育探究科学群（仮称）」を受験したいと思いますか。*

- 受験したい
- 受験しない

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 株式会社高等教育総合研究所 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム



- ① 「教育探究科学群（仮称）」に「受験したい」と回答した者に表示される画面

桜美林大学教育探究科学群（仮称）設置構想についての高校生アンケート

🔒 [Redacted] (共有なし) アカウントを切り替える

🔒

*必須

「受験したい」と答えた方のみお答えください。

「教育探究科学群（仮称）」に合格した場合、入学したいと思いますか。*

入学したい

併願校の結果によっては、入学したい

戻る 送信 フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 株式会社高等教育総合研究所 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

② 「教育探究科学群（仮称）」に「受験しない」と回答した者に表示される画面

桜美林大学教育探究科学群（仮称）設置構想についての高校生アンケート

  (共有なし) [アカウントを切り替える](#)



***必須**

「受験しない」と答えた方のみお答えください。

「教育探究科学群（仮称）」を受験しないと回答した理由をお教えてください。*

- まだ進路を決めていないから
- 詳細を知った上で検討したいから
- 興味・関心のある分野ではないから
- すでに他大学への進学を希望しているから
- 卒業後の進路として大学を考えていないから
- 通学が不便そうだから
- 学納金が高いから
- 首都圏に進学する予定ではないから
- その他

[戻る](#) [送信](#) [フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 株式会社高等教育総合研究所 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム



近隣大学の初年度学生納付金

大学名	学部・学科名	初年度学生納付金
和光大学	現代人間学部心理教育学科	1,300,000円
明星大学	人文学部人間社会学科	1,388,600円
大妻女子大学	人間関係学部	1,444,350円
関東学院大学	人間共生学部共生デザイン学科	1,584,660円
神奈川大学	人間科学部	1,176,300円
玉川大学	教育学部	1,768,880円
国土舘大学	文学部教育学科	1,408,600円

1 (書類等の題名)

学生の確保の見通し等を記載した書類【資料 7】 61～91 ページ

2 (出典)

高等教育に関するアンケート結果

3 (引用範囲)

「高等教育に関するアンケート結果」(一般社団法人日本経済団体連合会) (1 ページから 29 ページ)

https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/029_honbun.pdf



桜美林大学

J. F. Oberlin University

日経
独自調査

企業人事担当者から見た 大学イメージ調査

(価値ある大学2022年版より)

全国の私大で
総合ランキング

3位

(全体20位)

側面別ランキング

対人力 全国私大で1位
(全体4位)

独創性 全国私大で3位
(全体21位)

行動力 全国私大で4位
(全体10位)

企業から「リベラルアーツ学群という個性を伸ばす学習環境」を評価する声があり、その結果が総合ランキングの「行動力」(側面別10位)と「対人力」(同4位)の高い順位に表れているのではないのでしょうか。

日経キャリアマガジン特別編集「価値ある大学2022年版」編集長より

日経HR社の許可により日経キャリアマガジン特別編集「価値ある大学2022年版」(2021年6月2日)から抜粋したものです。禁無断転載



Part 2

企業の人事担当者から見た 大学イメージ

企業が毎年採用する大卒新入社員。企業の人事担当者は採用した社員をどう評価し、出身大学にどんなイメージを持っているのでしょうか。企業の人事担当者への調査をもとに、仕事で活躍する社員の多い大学を見てみましょう。

調査



調査内容・集計方法

全上場企業と一部有力未上場企業を対象に、過去2年間（2019年4月～2021年3月）の新卒採用において、正社員として採用・入社した実績のある大学を人数の多い順に10大学まで挙げてもらった。挙げた大学について、2年間の入社人数と、各大学の「学生のイメージ」（12項目）、および「大学の取り組みへのイメージ」（7項目）に関して、あてはまるかどうかを6段階評価（※1）で聞いた。

※1 非常にあてはまる／あてはまる／ややあてはまる／あまりあてはまらない／あてはまらない／まったくあてはまらない

集計時、6段階評価にそれぞれ10点、8点、6点、4点、2点、0点を付与。

今回調査（2021年実施）における大学名の回答と、昨年調査（2020年実施）における大学名の回答を合算して集計した。その際の処理として、今回調査と昨年調査の回答のうち、「同一企業」かつ「同一大学」の回答を重複扱いとし、昨年調査の回答を除外した。

① 各項目の得点の算出方法

有効回答のうち、項目ごとに獲得した点数に対して、2年間の入社人数を重みとした加重平均値を「得点」とした。

② 各側面別得点の算出方法（側面別ランキング）

各側面に該当する3項目（※2）を合算し、項目数（3）で割った平均値を「得点」とした。項目による重み付けは行っていない。

※2 側面①～④に対応する「学生のイメージ」項目は以下の通り。

- ① 行動力：熱意がある／主体性がある／チャレンジ精神がある
- ② 対人力：コミュニケーション能力が高い／ストレス耐性が高い／柔軟性、適応力がある
- ③ 知力・学力：論理的思考ができる／高い教養を身に付けている／理解力がすぐれている（地頭がよい）
- ④ 独創性：創造力がある／個性がある／着眼点が良い

③ 総合得点の算出方法（総合ランキング）

「学生のイメージ」についての側面別得点を単純合算した。側面による重み付けは行っていない。

④ ランキングの対象

調査対象企業から名前が挙がった件数を大学ごとに合計し、その件数が一定水準以上に達した大学を対象とした。側面別ランキングは上位25位を掲載。

※得点は小数点以下2桁表示（四捨五入）

調査概要（2021年実施分）

- ① 調査名……企業の人事担当者から見た大学イメージ調査
- ② 調査期間……2021年2月15日（月）～3月22日（月）
- ③ 調査対象……2021年2月現在の全上場企業（ジャスダック等新興市場含む、外国会社は除く）と一部有力未上場企業
- ④ 調査対象社数……4850社
- ⑤ 回答社数……834社（回答率17.2%）
- ⑥ 調査主体……日本経済新聞社と日経HRの共同調査
- ⑦ 調査協力……日経リサーチ

順位	分類	大学名	総合得点	側面① 貢献力	側面② 実力	側面③ 実力	側面④ 個性
33位	公	東京都立大学	30.25	7.57	7.75	8.10	6.83
34位	私	上智大学	30.19	7.41	7.57	7.97	7.24
35位	私	東京農業大学	30.18	7.97	7.56	7.21	7.44
36位	私	明治大学	30.05	7.78	7.79	7.37	7.11
37位	私	芝浦工業大学	30.04	7.64	7.55	7.64	7.21
38位	国	東京農工大学	30.00	7.57	7.37	7.75	7.31
39位	国	埼玉大学	29.99	7.52	7.66	7.81	7.00
40位	国	宇都宮大学	29.97	7.71	7.61	7.52	7.13
41位	国	九州工業大学	29.96	7.68	7.42	7.64	7.22
42位	私	國學院大学	29.82	7.58	7.68	7.32	7.24
43位	国	奈良先端科学技術大学院大学	29.78	7.47	7.19	7.65	7.47
44位	公	大阪市立大学	29.77	7.45	7.46	7.90	6.96
45位	国	福井大学	29.76	7.67	7.28	7.59	7.22
46位	国	三重大学	29.62	7.66	7.51	7.45	7.00
46位	国	長岡技術科学大学	29.62	7.57	7.32	7.75	6.98
48位	公	兵庫県立大学	29.54	7.44	7.36	7.58	7.16
49位	私	立命館大学	29.53	7.63	7.57	7.19	7.14
50位	私	法政大学	29.52	7.60	7.63	7.25	7.04
51位	私	立教大学	29.45	7.39	7.62	7.46	6.98
52位	私	青山学院大学	29.44	7.26	7.53	7.52	7.13
53位	国	香川大学	29.41	7.41	7.53	7.20	7.27
54位	私	関西大学	29.32	7.62	7.60	7.18	6.92

順位	分類	大学名	総合得点	側面① 貢献力	側面② 実力	側面③ 実力	側面④ 個性
11位	国	大阪大学	31.85	8.03	7.78	8.48	7.56
12位	国	九州大学	31.74	7.77	7.76	8.64	7.57
13位	国	東京外国語大学	31.71	8.05	7.67	8.67	7.32
14位	国	名古屋工業大学	31.34	7.99	7.67	8.25	7.43
15位	国	京都工芸繊維大学	31.33	7.90	7.46	8.26	7.71
16位	国	筑波大学	31.18	7.77	7.55	8.32	7.54
17位	国	岡山大学	31.09	7.84	7.63	7.97	7.65
18位	私	慶應義塾大学	31.04	7.74	7.97	8.14	7.19
18位	国	千葉大学	31.04	7.75	7.74	8.07	7.48
20位	私	桜美林大学	30.89	8.08	8.20	7.13	7.48
21位	国	広島大学	30.88	7.72	7.71	8.15	7.30
22位	国	信州大学	30.76	7.81	7.57	7.87	7.51
23位	私	同志社大学	30.64	7.79	7.77	7.82	7.26
24位	国	長崎大学	30.63	7.85	7.73	7.58	7.47
25位	国	岩手大学	30.59	7.42	7.61	7.85	7.71
25位	私	名古屋外国語大学	30.59	8.06	8.09	7.31	7.13
27位	私	白鴎大学	30.54	8.67	8.03	7.15	6.69
28位	国	和歌山大学	30.53	7.88	7.82	7.32	7.51
29位	私	関西学院大学	30.52	7.91	7.76	7.51	7.34
30位	私	獨協大学	30.47	8.00	7.77	7.44	7.26
31位	私	東京工芸大学	30.28	7.74	7.40	7.33	7.81
32位	私	東京理科大学	30.27	7.60	7.41	8.08	7.18

**MARCHを超えた
個性的な私大**

ランキング上位で目を引いたのは、MARCHなどの有名私立大学より上位に入った桜美林大学(20位)、名古屋外国語大学(25位)、白鴎大学(27位)、獨協大学(30位)、東京工芸大学(31位)です。桜美林大学は「リベラルアーツ学群」「ビジネスマネジメント学群」「グローバル・コミュニケーション学群」など全6学群を設置しているのが特徴。

名古屋外国語大学は外国語を

数で見ると、3位の東北大学と4位の東京大学の間で、1点以上の開きがあり、トップ3の高評価が際立っています。私立大学では早稲田大学の9位が最高位で、18位慶應義塾大学、20位に桜美林大学、23位同志社大学が続きました。公立大学では33位に東京都立大学、44位に大阪市立大学、48位に兵庫県立大学が入っています。総合ランキングに入っている157大学のうち、国立大学が56校、公立大学が9校、私立大学が92校となりました。国立大学は学校数では全大学の1割強ですが、ランキングでは3割以上を占めています。

ランキング上位で目を引いたのは、MARCHなどの有名私立大学より上位に入った桜美林大学(20位)、名古屋外国語大学(25位)、白鴎大学(27位)、獨協大学(30位)、東京工芸大学(31位)です。桜美林大学は「リベラルアーツ学群」「ビジネスマネジメント学群」「グローバル・コミュニケーション学群」など全6学群を設置しているのが特徴。

名古屋外国語大学は外国語を

➡ 関東・甲信越 (東京除く)

順位	分類	大学名	総合得点
1位	国	横浜国立大学	34.42
2位	国	筑波大学	31.18
3位	国	千葉大学	31.04
4位	国	信州大学	30.76
5位	私	白鷗大学	30.54
6位	私	獨協大学	30.47
7位	国	埼玉大学	29.99
8位	国	宇都宮大学	29.97
9位	国	長岡技術科学大学	29.62
10位	国	茨城大学	29.27

エリア別

ランキング

全国を7つの地域に分けて、地域ごとのランキングを出しました。大学数の多い東京、近畿は15位まで、他は10位までとしています。

ここで紹介するランキングは、都道府県を以下のように分類しています。

【北海道・東北】北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

【関東・甲信越 (東京除く)】茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨、長野

【東京】東京

【東海・北陸】静岡、岐阜、愛知、三重、富山、石川、福井

【近畿】滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫

【中国・四国】鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

【九州・沖縄】福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※大学の所在地は、原則として拠点(本部)としています

➡ 東京

順位	分類	大学名	総合得点
1位	国	東京大学	32.69
2位	国	東京工業大学	32.38
3位	私	早稲田大学	32.06
3位	国	一橋大学	32.06
5位	国	東京外国語大学	31.71
6位	私	慶應義塾大学	31.04
7位	私	桜美林大学	30.89
8位	私	東京工芸大学	30.28
9位	私	東京理科大学	30.27
10位	公	東京都立大学	30.25
11位	私	上智大学	30.19
12位	私	東京農業大学	30.18
13位	私	明治大学	30.05
14位	私	芝浦工業大学	30.04
15位	国	東京農工大学	30.00

➡ 北海道・東北

順位	分類	大学名	総合得点
1位	国	北海道大学	34.21
2位	国	東北大学	33.97
3位	国	岩手大学	30.59
4位	公	秋田県立大学	28.85
5位	国	山形大学	28.75
6位	私	東北学院大学	28.26
7位	私	北海学園大学	28.05
8位	私	東北工業大学	27.90
9位	国	秋田大学	27.88
10位	国	室蘭工業大学	27.24

順位	分類	大学名	側面得点	熱意がある	主体性がある	チャレンジ精神がある
1位	私	白鷗大学	8.67	8.93	8.54	8.54
2位	国	北海道大学	8.58	8.43	8.67	8.65
3位	私	創価大学	8.41	8.91	8.53	7.79
4位	国	京都大学	8.34	7.83	8.76	8.43
5位	私	早稲田大学	8.27	8.01	8.53	8.26
6位	国	東京工業大学	8.24	7.51	8.88	8.33
7位	国	横浜国立大学	8.18	8.07	8.30	8.16
8位	国	東北大学	8.17	7.96	8.52	8.04
9位	国	神戸大学	8.13	7.92	8.29	8.19
10位	私	桜美林大学	8.08	8.06	8.17	8.02
11位	私	名古屋外国語大学	8.06	8.29	8.51	7.37
12位	国	東京外国語大学	8.05	8.00	8.05	8.09
13位	国	大阪大学	8.03	7.79	8.28	8.03
14位	私	獨協大学	8.00	8.05	8.18	7.76
15位	国	名古屋工業大学	7.99	8.04	7.95	7.97
16位	国	名古屋大学	7.98	7.86	8.09	8.00
17位	私	東京農業大学	7.97	7.90	7.92	8.08
18位	国	東京大学	7.95	7.19	8.76	7.91
19位	私	関西学院大学	7.91	7.82	8.08	7.84
20位	私	国士舘大学	7.90	8.04	7.92	7.75
20位	国	京都工芸繊維大学	7.90	7.78	7.87	8.04
22位	国	和歌山大学	7.88	8.38	7.71	7.56
23位	私	金沢工業大学	7.87	8.15	7.65	7.82
24位	国	長崎大学	7.85	7.83	7.83	7.88
24位	私	千葉商科大学	7.85	8.23	7.73	7.58

行動力

側面別ランキング①

「熱意がある」「主体性がある」「チャレンジ精神がある」の3項目の得点を合算し、項目数で割った平均値を「行動力」としました。

1位は白鷗大学 「熱意」で高評価

行動力1位は、栃木県小山市にある白鷗大学(総合27位)。新型コロナウイルスでテレビ出演している岡田晴恵教授は同大学の教育学部の先生です。側面を構成する3項目では「熱意」が8・93の最高得点。企業からは「熱意と積極性と粘り強さのある社員が多い」といった声がありました。

2位は北海道大学で、「チャレンジ精神」の得点がトップでした。同大の基本理念の1つに「フロンティア精神」があり、それを体現する学生が多いのでしょう。3位に入った創価大学は、23ページで紹介した「社会人基礎力育成プログラム」2019年度大会でも行動力が評価されて大賞を受賞しています。「主体性」トップは東京工業大学でした。

人事担当者からは今の学生に不足している力として、2番目に多かった回答が「主体性」で、3番目が「熱意」「チャレンジ精神」でした。この3つの力は採用時の重視点でも上位に来ます。これらの力を身に付けた学生は企業から高い評価を受けるでしょう。

対人力

側面別ランキング②

順位	分類	大学名	側面得点	コミュニケーション能力が高い	ストレス耐性が高い	柔軟性、適応力がある
1位	国	北海道大学	8.49	8.61	8.29	8.56
2位	国	東北大学	8.37	8.41	8.13	8.56
3位	国	京都大学	8.28	8.46	8.30	8.08
4位	私	桜美林大学	8.20	8.81	7.57	8.21
5位	私	名古屋外国語大学	8.09	8.51	7.71	8.04
6位	私	早稲田大学	8.03	8.67	7.60	7.82
6位	私	白鷗大学	8.03	8.75	7.67	7.67
8位	国	神戸大学	8.00	8.30	7.76	7.94
9位	私	慶應義塾大学	7.97	8.82	7.08	8.01
10位	国	横浜国立大学	7.92	8.00	7.84	7.93
11位	国	東京工業大学	7.91	8.21	7.85	7.68
12位	国	一橋大学	7.87	8.10	7.46	8.04
13位	国	名古屋大学	7.85	7.92	7.79	7.83
14位	国	東京大学	7.82	8.25	7.72	7.49
14位	国	和歌山大学	7.82	8.60	7.37	7.49
16位	私	明治大学	7.79	8.25	7.58	7.54
17位	国	大阪大学	7.78	8.05	7.64	7.64
18位	私	同志社大学	7.77	8.23	7.43	7.66
18位	私	獨協大学	7.77	8.25	7.33	7.73
20位	私	関西学院大学	7.76	8.21	7.39	7.67
20位	国	九州大学	7.76	8.00	7.74	7.54
22位	公	東京都立大学	7.75	8.28	7.67	7.31
23位	国	千葉大学	7.74	7.98	7.58	7.66
24位	国	長崎大学	7.73	7.86	7.54	7.78
25位	国	広島大学	7.71	8.03	7.45	7.64

「コミュニケーション能力が高い」「ストレス耐性が高い」「柔軟性、適応力がある」の3項目の得点を合算し、項目数で割った平均値を「対人力」としました。

企業が最も重視する コミュ力は慶應義塾大学

経団連が2018年まで実施していた「新卒採用に関するアンケート調査結果」にある「選考にあたって特に重視した点」という質問では、16年連続で「コミュニケーション能力」が1位となっています。本調査でも最も重視する能力となっており、企業で働く上では欠かせない能力です。

1位は北海道大学、2位東北大学、3位京都大学と、総合ランキングトップ3が並びました。「対人力」を構成する「コミュニケーション能力」では慶應義塾大学、「ストレス耐性」では京都大学、「柔軟性、適応力」では北海道大学・東北大学がそれぞれ1位となりました。

企業から大学について次のようなコメントがありました。北海道大学は「人当たりが良く柔らかい感じの学生が多い」、東北大学は「高いコミュニケーション能力により他部門と横断的に関わりながら活躍している」、慶應義塾大学は「総じてコミュニケーション能力が高く、同校出身者同士のネットワークが強い」。

順位	会	大学名	側面得点	創造力がある	個性がある	着眼点が高い
1位	国	東北大学	8.40	8.27	8.53	8.40
2位	国	京都大学	8.30	8.37	8.36	8.18
3位	国	北海道大学	8.26	8.23	8.37	8.18
4位	国	東京大学	8.04	8.34	7.93	7.84
5位	国	横浜国立大学	7.81	7.70	7.93	7.79
5位	私	東京工芸大学	7.81	7.35	8.28	7.79
7位	国	東京工業大学	7.75	8.09	7.51	7.66
8位	国	京都工芸繊維大学	7.71	7.70	7.74	7.68
8位	国	岩手大学	7.71	7.63	7.71	7.80
10位	国	一橋大学	7.69	7.56	7.73	7.77
10位	国	豊橋技術科学大学	7.69	7.71	7.80	7.56
12位	国	名古屋大学	7.65	7.50	7.61	7.85
12位	国	岡山大学	7.65	7.68	7.66	7.61
14位	国	神戸大学	7.58	7.54	7.46	7.74
15位	国	九州大学	7.57	7.58	7.58	7.56
16位	国	大阪大学	7.56	7.74	7.54	7.41
17位	私	早稲田大学	7.54	7.72	7.57	7.33
17位	国	筑波大学	7.54	7.47	7.47	7.68
19位	国	信州大学	7.51	7.47	7.40	7.66
19位	国	和歌山大学	7.51	7.49	7.46	7.59
21位	国	千葉大学	7.48	7.52	7.37	7.54
21位	私	桜美林大学	7.48	7.38	7.72	7.34
23位	国	長崎大学	7.47	7.47	7.61	7.33
23位	国	奈良先端科学技術大学院大学	7.47	7.37	7.47	7.58
25位	私	東京農業大学	7.44	7.28	7.62	7.43

独創性

側面別ランキング④

「創造力がある」「個性がある」「着眼点が高い」の3項目の得点を合算し、項目数で割った平均値を「知力・学力」としました。

東京工芸大学が私立トップに

新型コロナウイルスの世界的な流行が起きたように、何が起ころのか分からない現代は「VUCA（ブーカ＝変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）」時代といわれています。これまでは必要だった事業が環境変化によって不要になる、というようなことが起こっています。こんな時代にこそ求められるのが「独創性」です。

東北大学は「個性」「着眼点」で最高得点を取って1位になりました。2位には「創造力」が最高得点の京都大学、3位には北海道大学が入りました。「知力・学力」同様に国立大学が21校と多く、東京工業大学（7位）、京都工芸繊維大学（8位）、豊橋技術科学大学（10位）、奈良先端科学技術大学院大学（23位）などの理工系大学が多いのも特徴的です。

私立では東京工芸大学が実践的な専門知識が高く評価されて5位に入ったほか、早稲田大学（17位）、桜美林大学（21位）、東京農業大学（25位）もランクインしています。

↓ 日本人学生のグローバル教育に取り組んでいる大学

順位	分類	大学名	得点
1位	国	東京外国語大学	8.93
2位	国	東京大学	8.66
3位	私	上智大学	8.63
4位	私	名古屋外国語大学	8.62
5位	私	早稲田大学	8.45
6位	国	東北大学	8.41
7位	国	京都大学	8.30
8位	国	東京工業大学	8.29
9位	国	神戸大学	8.24
9位	国	筑波大学	8.24
11位	国	北海道大学	8.19
12位	国	大阪大学	8.01
13位	国	一橋大学	8.00
14位	私	桜美林大学	7.94
15位	私	関西外国語大学	7.91
16位	国	金沢大学	7.87
17位	私	慶應義塾大学	7.83
17位	私	南山大学	7.83
19位	私	獨協大学	7.78
20位	私	関西学院大学	7.71
20位	国	横浜国立大学	7.71

⇒非常に語学力が高く、留学制度等も充実しており、学生へのグローバル教育が非常に熱心。(ガラス・土石)

⇒グローバルな教養を培うための授業が多くある。また、留学生と交流するためのコミュニティが多く存在している。(不動産)

⇒語学力の高い学生が多く、留学支援制度も充実している印象のため。(輸送用機器)

⇒語学力は相対的に見ても高い。(運輸・倉庫)

⇒グローバル・アカデミックポート構築に取り組んでいるため。(電機)

↓ 外国人留学生の教育・就職支援に力を入れている大学

順位	分類	大学名	得点
1位	公	神戸市外国語大学	9.52
2位	私	上智大学	8.99
3位	私	関西外国語大学	8.90
4位	私	名古屋外国語大学	8.76
5位	国	京都大学	8.57
6位	国	北海道大学	8.52
7位	国	神戸大学	8.45
8位	国	東北大学	8.38
9位	国	名古屋工業大学	8.32
10位	私	獨協大学	8.29
11位	国	大阪大学	8.24
12位	国	名古屋大学	8.17
13位	国	九州大学	8.13
13位	私	南山大学	8.13
15位	国	筑波大学	8.10
15位	国	九州工業大学	8.10
17位	私	東京国際大学	8.05
18位	国	東京大学	8.01
19位	私	桜美林大学	7.97
20位	国	一橋大学	7.94

⇒採用選考時の学生からのヒアリングによる印象。(卸売・小売)

⇒外国人留学生が多く、留学生向けのインターンシップ獲得など積極的に大学が取り組んでいる。(電機)

⇒留学生の応募者が多い。(機械)

⇒外国人留学生の日本語能力はもちろん、日本人学生も外国語の習得ができています。(卸売・小売)

※2021年調査からの新規の設問のため2021年の調査結果のみで算出しています

授業の質の向上に 熱心に取り組んでいる大学

順位	分類	大学名	得点
1位	国	東北大学	8.96
2位	私	東京工芸大学	8.51
3位	国	北海道大学	8.50
4位	私	白鷗大学	8.33
5位	国	京都大学	8.32
5位	国	横浜国立大学	8.32
7位	国	東京大学	8.25
8位	国	神戸大学	8.20
9位	私	神奈川工科大学	8.14
10位	国	名古屋大学	8.13
11位	国	一橋大学	8.10
12位	国	岡山大学	8.03
13位	私	桜美林大学	8.00
14位	国	東京工業大学	7.98
15位	国	東京外国語大学	7.95
16位	私	千葉商科大学	7.92
17位	私	早稲田大学	7.90
18位	国	岩手大学	7.88
19位	国	大阪大学	7.86
20位	私	名古屋外国語大学	7.85

産学連携に力を入れており、1年生から社会人になることを意識した教育を掲げ運営している。(その他製造)

リベラルアーツ学群という個性を伸ばす自由な学習ができる環境があるため。(サービス)

実際に積極的に学んでいる学生が多いため。(卸売・小売)

学生の学びを重視している。(卸売・小売)

全学教育推進機構を構えており、アクティブラーニング教室(HALC)を運営しているなど、教育の質を向上するための活動を積極的に行っているため。(機械)

就職支援、グローバル教育 留学生支援に強い大学

就職支援に熱心な大学は、2年連続で名古屋工業大学が1位になりました。他に、東京工芸大学、広島修道大学、福岡工業大学、関西外国語大学、九州産業大学、金沢工業大学、千葉商科大学、日本工業大学が昨年に続いてランクインしています。就職支援方法の良さだけでなく、人事担当者や教職員が良好な関係を築いていると思われれます。

日本人学生のグローバル教育に取り組む大学の1位は東京外国語大学でした。4位の名古屋外国語大学、15位の関西外国語大学など外国語大のほか、上智大学や早稲田大学、大阪大学、南山大学、獨協大学など、外国語系学部を持つ大学が入っています。

外国人留学生の教育や就職支援に力を入れている大学では、神戸市外国語大学が1位でした。企業はダイバーシティ(多様性)を推進しており、外国人留学生の採用にも積極的です。採用した外国人の日本語能力の高さを評価する企業が多いことが分かりました。